

授業概要

科目名	情報リテラシー I	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	1 単位 総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用し、複合文書を作成できる ・マナーを守ってメールを作成できる ・図解や画像を駆使した、訴求力のあるプレゼン資料を作成して発表できる 							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
オリジナルのe-learningテキスト				e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する			
コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】 CCT入門1 web検索、マウスの操作、PCトラブル時の解決方法 【到達目標】 検索力を身につけ問題を解決できる	9	【授業単元】 PowerPoint1 基本操作 【到達目標】 プレゼンテーションソフトの基本操作ができる	10	【授業単元】 PowerPoint2 表現力を上げる 【到達目標】 図形や画像を活用したスライドを作成できる	11	【授業単元】 PowerPoint3 動きを付ける 【到達目標】 スライドに動きを付け、全てのスライドを作成できる
2	【授業単元】 CCT入門2 ITリテラシー 滋慶学園 ITリテラシー理解度テスト 【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる	12	【授業単元】 PowerPoint ブラッシュアップ 【到達目標】 フォントや配色を工夫して見やすいスライドを作成できる	13	【授業単元】 PowerPoint4 発表 【到達目標】 作成したプレゼン資料を発表できる	14	【授業単元】 PowerPoint試験対策 【到達目標】 PowerPoint講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる
3	【授業単元】 Word基礎1 基本操作 【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる	15	【授業単元】 PowerPoint定期試験 、振り返り 【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、PowerPoint資料を作成できる				
4	【授業単元】 Word基礎2 画像や图形 【到達目標】 画像や图形を駆使した文書を作成できる						
5	【授業単元】 Word基礎3 表の作成 【到達目標】 表を駆使した文書を作成できる						
6	【授業単元】 メールマナー 【到達目標】 メールの構成を理解し、マナーを守ってメールを作成できる						
7	【授業単元】 Word試験対策 【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる						
8	【授業単元】 Word中テスト 【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる						
【履修に当たっての心構え・留意点】				【成績評価の方法と基準】			
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はPCを使用したPowerPointスライド作成を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			

授業概要

科目名	情報リテラシーⅠ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	株式会社 ブレーンスタッフコンサルタント		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・AIに関する正しい情報や知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる
 - ・Excelを利用した基本的なデータ処理や、表・グラフを活用した実践的な資料作成ができる
 - ・Excelの応用的な関数やシート間集計学会習し、目的に応じたデータ処理を実践できる

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

滋慶学園グループの企業である(株)フレーンスタッフコンサルタントのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用

【使用教科書・教材・参考図書】	【授業時間外における学習】
オリジナルのe-learningテキスト	e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 AIリテラシー</p> <p>【到達目標】 AIに関する正しい情報や知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる</p>	9	<p>【授業単元】 Excel応用A データベース</p> <p>【到達目標】 データベース機能を理解し活用できる</p>
2	<p>【授業単元】 AI機械学習体験</p> <p>【到達目標】 AI機械学習を体験する</p>	10	<p>【授業単元】 Excel応用B 関数応用1</p> <p>【到達目標】 応用的な関数を活用できる</p>
3	<p>【授業単元】 CCT入門4 Office基本操作</p> <p>【到達目標】 Excelの基本操作ができる</p>	11	<p>【授業単元】 Excel応用C 関数応用2</p> <p>【到達目標】 応用的な関数を活用できる</p>
4	<p>【授業単元】 Excel基礎1 基本操作</p> <p>【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる</p>	12	<p>【授業単元】 Excel応用D グラフ応用</p> <p>【到達目標】 目的に合ったグラフを選択し、作成することができる</p>
5	<p>【授業単元】 Excel基礎2 数式と関数基礎</p> <p>【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる</p>	13	<p>【授業単元】 Excel応用E ブックの活用</p> <p>【到達目標】 ブックを活用するさまざまな機能を理解し活用できる</p>
6	<p>【授業単元】 Excel基礎3 グラフ基礎</p> <p>【到達目標】 グラフを駆使した資料を作成できる</p>	14	<p>【授業単元】 Excel試験対策</p> <p>【到達目標】 Excel講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる</p>
7	<p>【授業単元】 Excel実践</p> <p>【到達目標】 Excel基礎講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる</p>	15	<p>【授業単元】 Excel定期試験・振り返り</p> <p>【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Excel資料を作成できる</p>
8	<p>【授業単元】 Excel中テスト</p> <p>【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Excel資料を作成できる</p>	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>また、試験はPCを使用したExcel資料作成を行う。</p> <p>毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください</p>			

授業概要

授業概要

科目名	キャリアプランニング	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	有)両國あんこあられ本舗 岩佐 浩之		
学科・専攻	社会福祉科	学年	1年	授業形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

様々な情報を取り、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。
コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に着け実践できるようになる。
自分自身を社会に出て、マーケティングができるようになる。

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)

流通業界では様々な仕入れ販元の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

毎回授業の際、資料を配布		世の中の疑問点を探し質問する	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション</p> <p>【到達目標】 後期15回の流れの説明と到達地点の確認をイメージする。 各コマの予告編</p>	9	<p>【授業単元】 中間試験</p> <p>【到達目標】 1回から8回までの復習と調整 中間テストによる理解度のチェックをします。</p>
2	<p>【授業単元】 マーケティングマネジメント基礎理論</p> <p>【到達目標】 ①バリュープロポジションとは何か学び理解する。 ②マーケティングの中核・実体・付属機能について学ぶ。 戦略戦術が立てられるようになる。</p>	10	<p>【授業単元】 お金・税金・インボイス制度</p> <p>【到達目標】 経費について学び理解する。</p>
3	<p>【授業単元】 マーケティングマネジメント基礎理論</p> <p>【到達目標】 ①ノバーター理論・キャズム理論について学ぶ。マイケルポーターの理論 ②物や人がなぜ売れたのか？様々な例を基に理解する。</p>	11	<p>【授業単元】 ライフプラン</p> <p>【到達目標】 ライフプランを実際に立てて将来をイメージし書き出す。 相続・根抵当について知る。</p>
4	<p>【授業単元】 アイドルエコノミー</p> <p>【到達目標】 アイドリングビジネスを学び理解し戦術戦略が立てられる。 顧客は、お金を出して何を買っているのかを学び、戦略戦術が立てられる。らしさを分析する。</p>	12	<p>【授業単元】 考え方 7つの習慣</p> <p>【到達目標】 ①主体性を発揮する ②目的を持って始める ③重要事項を優先する</p>
5	<p>【授業単元】 手紙・はがき・敬語・尊敬語・丁寧語・クッショング言葉</p> <p>【到達目標】 挨拶文・御礼文のルールを学び、書けるようになる。敬語・尊敬語・丁寧語・クッショング言葉を学び、使いこなせるようになった。 会話にオーラのある人の生き方を学び習得する。</p>	13	<p>【授業単元】 考え方 7つの習慣</p> <p>【到達目標】 7つの習慣 ④Win-Winを考える ⑤理解してから理解される ⑥相乗効果を発揮する ⑦刃を研ぐ</p>
6	<p>【授業単元】 履歴書</p> <p>【到達目標】 履歴書のルールを学ぶ 自己覚知する。自分の長所を文章にして書き出す。</p>	14	<p>【授業単元】 復習</p> <p>【到達目標】 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開設する。</p>
7	<p>【授業単元】 履歴書</p> <p>【到達目標】 自分のセールスポイントを、原稿用紙に書き出す。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験</p> <p>【到達目標】 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書く、答えの無い試験問題です。</p>
8	<p>【授業単元】 経営者の仕事</p> <p>【到達目標】 経営者の仕事について学ぶ。 世の中の、しきたりについて学び理解する。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>試験は筆記試験で行う。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。</p>			

授業概要

科目名	文章表現	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	徳岡健男			
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
わかり易い文章の書き方を学ぶ講座です。前半は実習のための自己PRや志望動機などの文章をわかりやすく伝えるためのポイントを学びます。また、実習先で報告書を記入する際のポイントを学びます。後半は 就職試験や公務員試験でおこなわれる文章理解と小論文などにおいて、効果がある講座内容になります。具体的には、起承転結のある文章と論理的な文章を読み、その組み立てを学びます。最後に、学びを活かして、800字～1200字で小論文を書きます。										
【学習内容】										
流通業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、わかり易い文章の書き方を指導する。										
授業実施後には、起承転結や、序論、本論、結論という、わかりやすく組み立てられた文章を書けるレベルに到達できる授業である。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
書名:「日本語練習帳」岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。特に新聞記事などを読むことを推奨したい。					
回	授業計画	回	授業計画							
1	【授業単元】 わかり易い文章とは①	9	【授業単元】 論理的に文章を読む。①『はやぶさ式思考法』							
	【到達目標】 相手本位の文章を考える。 仕事で必要な文章を考える。		【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。							
2	【授業単元】 わかり易い文章とは②	10	【授業単元】 論理的に文章を読む②『ローマから日本が見える』							
	【到達目標】 簡潔な文章を理解する。 一文を簡潔に。修飾の順序に気を付ける。		【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。							
3	【授業単元】 わかり易い文章③	11	【授業単元】 論理的に文章を読む③「下町ロケット」「小説の読み方」							
	【到達目標】 自己PRを書いてみる。 根拠を挙げ、相手に納得してもらう。		【到達目標】 描写から人物像を読み取る。 キーワードを意識して文章を読む。							
4	【授業単元】 わかり易い文章④	12	【授業単元】 小論文を書いてみる①							
	【到達目標】 志望動機を書いてみる。 なぜ社会福祉士になりたいのか。		【到達目標】 作文と小論文の違いを理解する。 情緒が中心文章と理性的な文章の違いを知る。							
5	【授業単元】 語彙力を高める①	13	【授業単元】 小論文を書いてみる②							
	【到達目標】 熟語を学ぶ。 三字熟語と四字熟語		【到達目標】 書き方の手順を知る。 小論文の評価のポイントを知る。							
6	【授業単元】 語彙力を高める②	14	【授業単元】 小論文を書いてみる③テーマを設定し、課題作文を書く。							
	【到達目標】 故事成語ととわざを学ぶ。 慣用句を学ぶ。		【到達目標】 小論文(課題作文)の提出。							
7	【授業単元】 語彙力を高める③ 同訓異字、同音異字、四字熟語などを学ぶ。	15	【授業単元】 定期試験(小論文試験)							
	【到達目標】 同訓異字、同音異字、対義語を学ぶ。		【到達目標】 試験終了後に解答・解説							
8	【授業単元】 1～7回までの授業で学習した範囲から出題。		【成績評価の方法と基準】							
	【到達目標】 解答・解説		評価は筆記試験と小論文の提出で行なう。筆記試験は授業で確認した知識の定着度(1回～7回)を確認する。8回目～14回については、小論文試験とする。小論文の評価基準については、わかり易い文章の授業の中で伝える。また、各授業の中で小テストを実施し、小テスト40点・定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則の規定に準ずる。							
【履修に当たっての心構え・留意点】										
文章に親しむ。まず、文章を読み、内容を理解することが大切です。										

授業概要

科目名	コミュニケーション技法	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	有)両国あんこあら本舗 木村 雅一		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・社会で通用するコミュニケーション力を身につけ実践の場で行動できるようになる ・職業人として効果的なコミュニケーション方法を知り、活用できるようになる 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>・専門商社で北米・東南アジアを中心とした貿易業務に携わり、異文化コミュニケーションの大切さ、難しさを身を持って体験した講師が、長年の経験をもとに、人との中での生きることが必須となる人間と基礎となる“コミュニケーション”を講義を行う。同時に人間関係を円滑にし、職業人として身につけるべき自己表現・接遇・マナー・ホスピタリティ精神の要素も含めた社会的スキルの大切さを意識し、専門的知識と基礎的知識の基礎を習得する講義を行う</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回授業で資料配布					分らない専門用語などは、予め調べて予習しておく 日常のコミュニケーションの場においても、授業でのポイントは意識してみる				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 コミュニケーションとは	9	【授業単元】 社会的スキル I 対人行動 II 文書作成						
	【到達目標】 ・コミュニケーションの定義について理解することができる ・コミュニケーションの3領域・種類を理解することができる ・表情・態度・口調が言葉以上に重要であるということが理解できるようになる		【到達目標】 ・社会的スキルの実践 習得をする。 5接客 6訪問 7訪問(謝る おわびをする) ・ビジネス文書(社内文 社外文)の意義を理解することができる						
2	【授業単元】 基本的対話スキル(1対1の会話)	10	【授業単元】 社会的スキル II 文書作成						
	【到達目標】 ・コミュニケーション・ミスコミュニケーションの原因を会話のプロセスの中で理解することができる ・「聞く」「話す」の基本「上手な質問」の要点を理解することができる・会話=気持ちや考えの交換を事例を通して学ぶ		【到達目標】 ・社外文章を明瞭・簡潔に記書きを用いて作成できるようになる						
3	【授業単元】 グループでの会話 自己表現スキル	11	【授業単元】 社会的スキルの実践 II 文書作成						
	【到達目標】 ・グループとは? グループの意義を理解することができる ・グループでの会話の基本を1対1との会話と比較し理解することができる ・人間関係を円滑にする表現技術の要点を理解することができる		【到達目標】 ・社会人の基本的マナー・教養、身につけるべき知識を学習し 日々の行動から意識し活用できるようにする 手紙 メール SNS FAX						
4	【授業単元】 自己表現スキル I 自己表現スキル II	12	【授業単元】 サービスマインド I サービスマインドとは						
	【到達目標】 ・人間関係を円滑にする「上手な頼み方」「上手な断り方」のポイントを理解することができる ・仕事上で必要とされる表現技術のスキルを理解することができる 「報告」「連絡」「相談」 5W1H法 PREP法		【到達目標】 ・サービス社会をふまえて。サービスマインドとは?、サービスとは? について理解することができる ・サービスの心得を習得し、実践の場に活かすことができる						
5	【授業単元】 自己表現スキル II	13	【授業単元】 サービスマインド I サービスマインドとは						
	【到達目標】 ・「交渉」というコミュニケーションについて理解することができる ・「説得」というコミュニケーションについて理解することができる ・プレゼンテーションの基本を理解し、簡単なプレゼンテーションができるようになる		【到達目標】 ・サービスを作り出す基本要素を理解することができる ・1人(あなた)と顧客/顧客満足度の関係を整理し、適切な行動と顧客理解、顧客ニーズを理解することができる ・2環境 身だしなみを中心に環境サービスについて理解できる						
6	【授業単元】 自己表現スキル III	14	【授業単元】 サービスマインド II サービスの基本要素						
	【到達目標】 ・トラブルのもととなる感情への対処法が理解できるようになる ・アンガーマネジメントについて理解できるようになる ・「感情」と「行動」の相関性、対処法が理解できるようになる 怒りの感情の扱い方 怒りの伝え方 他者からの怒りの対処		【到達目標】 ・企業、店舗における経営理念、それを実現するための方針、サービスの方法、お客様への考え方を「プロセス」としてとらえ、その方針や目的を実現するための重要な過程を理解することができる 理念、方針の理解 迅速対応 win-winの関係						
7	【授業単元】 社会的スキル 対人行動	15	【授業単元】 定期試験 終了後の解答解説						
	【到達目標】 ・基本的な社会的スキル マナー/仕事に対する姿勢について、理解できるようになる ・社会的スキル 対人行動を理解し、活用できるようになる 1挨拶 2敬語 3電話対応 4携帯電話		【到達目標】 分らない問題を洗い出し、課題を抽出する 抽出された課題の何が分らなかったのかを特定し、理解する						
8	【授業単元】 中間試験		【成績評価の方法と基準】						
	【到達目標】 ・試験終了後、最後の単元のまとめをおこなう。 ・分らない問題を洗い出し、課題を抽出する 抽出された課題の何が分らなかったのかを特定し、理解する		<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、筆記試験で行う。 ・授業内で学んだ知識を確認する。 ・定期試験は、60分とし、終了後解説をおこなう。 ・筆記試験は、中間テスト(40点) 期末テスト(60点)の合計100点で評価する。 ・評価は、学則規定に準ずる。 						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業に指示した内容にマーキングをし、しっかり理解する ・わからないことは、積極的に質問をする 									

授業概要

科目名	チャレンジプログラム指導	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	幾田こずえ		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
様々な現場での専門職員や利用者を知ることを通して、自分の将来像を明確にすることを目的とする。この授業においては、チャレンジプログラムにおける現場体験をもとに、振り返りを実施し、自己の体験・意見と他者の体験・意見を共有する中で、自分の価値観の幅を広げること。また、理想の職業像と自己において乖離がみられる部分はどのようにして自己研鑽していくか計画を立てていく。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。併せて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教材:適宜資料を配布					自己研鑽が必要な部分は自ら調べ、体験していくこと。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 授業スケジュールの説明 チャレンジプログラム前指導①	9	【授業単元】 4日体験プログラム①振り返り						
2	【授業単元】 チャレンジプログラム前指導② 実習先紹介・実習日誌・チャレンジの目標作成	10	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる						
3	【到達目標】 実習の目的を理解し、自分の目標を説明することができる。 実習マナーを実践することができる 自分の考えを文章化することができる		【授業単元】 4日体験プログラム②振り返り						
4	【授業単元】 1日体験プログラム前指導 体験先調査	11	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる						
5	【到達目標】 様々な施設の働きや役割、背景や地域性について調べ、まとめたことを文章化し、説明することができる		【授業単元】 4日体験プログラム③振り返り						
6	【授業単元】 1日体験プログラム①振り返り 体験先調査	12	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる						
7	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる		【授業単元】 4日間体験プログラムプレゼン発表準備						
8	【授業単元】 1日体験プログラム②振り返り	13	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる 得た気づきを文章化することができる						
9	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる		【授業単元】 4日間体験プログラムでの経験を授業の内容と紐づけ、自身の学びとして自らの言葉でまとめる						
10	【授業単元】 1日体験プログラム③振り返り	14	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる 得た気づきを文章化することができる						
11	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる 4日間体験プログラムでの経験を授業の内容と紐づけ、自身の学びとして自らの言葉でまとめる		【授業単元】 4日間体験プログラムプレゼン発表準備						
12	【授業単元】 1日体験プログラム④振り返り 中テスト	15	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる 4日間体験プログラムでの経験を授業の内容と紐づけ、自身の学びとして自らの言葉でまとめる						
13	【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる 得た気づきを文章化することができる チャレンジプログラムの内容について自己で振り返ることができる		【成績評価の方法と基準】						
14	【授業単元】 4日体験プログラム前指導		科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。						
15	【到達目標】 様々な施設の働きや役割、背景や地域性について調べ、まとめたことを文章化し、説明することができる		毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。									

授業概要

科目名	チャレンジプログラム	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	幾田こずえ		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間

【授業を通じての到達目標】

様々な現場での専門職員や利用者を知ることを通して、自分の将来像を明確にすることを目的とする。それを明確にすることによって、普段の学業や私生活において意味付けを追加し、充実した学校生活を送ることができるようになる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。併せて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

教材:適宜資料を配布

【授業時間外における学習】

実習内容の振り返りと共に、関連する内容についての調べ学習やボランティアの参加等を積極的に行う。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 チャレンジ前プログラム① 分野別(高齢・障害・福祉・教育)における業務内容・多職種連携</p> <p>【到達目標】 分野別(高齢・障害・福祉・教育)における業務内容・多職種連携をグループでまとめ、理解することができる</p>	9	<p>【授業単元】 4日体験プログラム②</p> <p>【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる</p>
2	<p>【授業単元】 チャレンジ前プログラム② 実習ロールプレイ(挨拶・実習生としての話し方・聞き方) 実習先アクセス調査</p> <p>【到達目標】 実習生としての基本的なマナーについて理解し、実践することができる</p>	10	<p>【授業単元】 4日体験プログラム③</p> <p>【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる</p>
3	<p>【授業単元】 1日体験プログラム①</p> <p>【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる</p>	11	<p>【授業単元】 4日体験プログラム④</p> <p>【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる</p>
4	<p>【授業単元】 1日体験プログラム②</p> <p>【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる</p>	12	<p>【授業単元】 講演②</p> <p>【到達目標】 講演概要調査 講師の話から施設や支援者の役割等を理解し、説明することができる</p>
5	<p>【授業単元】 1日体験プログラム③</p> <p>【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる</p>	13	<p>【授業単元】 講演③</p> <p>【到達目標】 講演概要調査 講師の話から施設や支援者の役割等を理解し、説明することができる</p>
6	<p>【授業単元】 1日体験プログラム④ 中テスト</p> <p>【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる これまで学んだことを復習し、4日間体験プログラムの準備をすることができる</p>	14	<p>【授業単元】 4日間体験プログラムプレゼン発表準備</p> <p>【到達目標】 4日間体験プログラムでの経験を授業の内容と紐づけ、自身の学びとして自らの言葉でまとめることができる</p>
7	<p>【授業単元】 講演①</p> <p>【到達目標】 講演概要調査 講師の話から施設や支援者の役割等を理解し、説明することができる</p>	15	<p>【授業単元】 プレゼン発表 定期試験</p> <p>【到達目標】 これまで学んだことを復習することができる 内容をまとめ、プレゼンを行うことができる 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる</p>
8	<p>【授業単元】 4日体験プログラム①</p> <p>【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。 チャレンジプログラムにおいては1~4限まで要するが、1コマと表記します。</p>		

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅰ	必修選択の別	必修	開講区分	前期集中	担当教員	幾田こずえ		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワークの知識技術を学ぶにあたり、学則など学校生活のルールや社会人に求められるスキルやマインドを身につける									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワークにおける知識、技術を体系的に学ぶ									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
資料、レジュメを配布									
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 確実の理念、3つのポリシー、養成目的、教育目標、学年目標を理解して、4年間の学ぶ目的や目標を理解する	9	【授業単元】 導入教育 【到達目標】 ・学生相談室の利用方法を理解し、ストレスコントロールができるようになる ・自己紹介の準備を通して自分自身を知り、プレゼンテーションスキルを身につけることができる						
2	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 ・学年歴を通して1年間の流れを確認し、1年後に身につける力を理解する ・時間割表を用いて各授業内容の確認をして、新しい学校生活のスタートを切る	10	【授業単元】 導入教育 【到達目標】 ・自己紹介を通してプレゼンテーションスキルを身につける ・自己紹介を通して他者を知り、相互支援関係の構築ができるようになる。						
3	【授業単元】 導入教育 【到達目標】 ・学則、学則施行細則を理解する ・シラバス、コマシラバス、小テスト、中テスト、定期テストの詳細を理解する	11	【授業単元】 導入教育 【到達目標】 ・自己紹介を通してプレゼンテーションスキルを身につける ・自己紹介を通して他者を知り、相互支援関係の構築ができるようになる。						
4	【授業単元】 導入教育 【到達目標】 入学宣誓書の作成を通して、ソーシャルワーカーを目指したきっかけ・入学後に頑張りたいことを整理して自分自身への勇気づけができるようになる。	12	【授業単元】 入学式 【到達目標】 4年間の学校生活の始まりにやる気と期待を高めることができる						
5	【授業単元】 導入教育 【到達目標】 ・グループ活動を通して自分を伝え、相手を知り、相互支援関係の土台を築く ・teamsを始めとしたインターネットを活用するにあたり、ITリテラシーを理解する	13	【授業単元】 成功の原則 【到達目標】 主体性を発揮するとはどのようなことなのかを理解して行動できるようになる						
6	【授業単元】 導入教育 【到達目標】 teamsの使い方を理解して、授業を受けるためのスキルを身につける	14	【授業単元】 成功の原則 【到達目標】 目的を持って始める、重要事項を優先するとはどのようなことなのかを理解して行動できるようになる						
7	【授業単元】 導入教育 【到達目標】 teamsの使い方を理解して、授業を受けるためのスキルを身につける	15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 前期の学校生活を振り返り、学んだことや成長したことと言語化する						
8	【授業単元】 導入教育 【到達目標】 ・学生相談室の利用方法を理解し、ストレスコントロールができるようになる ・自己紹介の準備を通して自分自身を知り、プレゼンテーションスキルを身につけることができる		【成績評価の方法と基準】 【小テスト】40点 【定期テスト】60点 上記2つの合計点でA～Fの6段階で評価をする						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
周囲と協力して学習に参加し、良好な授業環境を整える									

授業概要

科目名	心理学と心理学的支援	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	阿相周一		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理学と心理学的支援を概観し、基礎的・包括的な理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 心理学の歴史と心の健康、心理学的支援を理解し、説明することができるこことを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療(特に依存症／アディクションを専門)や教育、治験等の分野で臨床活動に携わっている。授業では、アディクション・臨床の知見を取り入れ、将来の臨床活動や日々の日常生活に役立つ実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書: 心理学と心理的支援 中央法規 参考図書: 各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 科目オリエンテーション	9	【授業単元】 心の不適応						
	【到達目標】 心理学と心とは何かを説明することができる		【到達目標】 心の不適応を説明することができる						
2	【授業単元】 心理学の歴史	10	【授業単元】 健康生成論						
	【到達目標】 心理学の歴史を説明することができる		【到達目標】 健康生成論を説明することができる						
3	【授業単元】 心の生物学的基盤	11	【授業単元】 心理アセスメントと心理支援の基本的技法						
	【到達目標】 心の生物学的基盤を説明することができる		【到達目標】 心理アセスメントと心理支援の基本的技法を説明することができる						
4	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能1	12	【授業単元】 心理療法						
	【到達目標】 感情・動機付け・欲求、学習・行動を説明することができる		【到達目標】 各心理療法を説明することができる						
5	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能2	13	【授業単元】 子ども・家庭福祉、高齢者福祉、障害児・者福祉						
	【到達目標】 感覚・知覚、認知を説明することができる		【到達目標】 子ども・家庭福祉、高齢者福祉、障害児・者福祉を説明することができる						
6	【授業単元】 人の心の基本的な仕組みと機能3	14	【授業単元】 精神保健福祉、支援者支援福祉、制度利用と心理的ケア						
	【到達目標】 知能・パーソナリティ、社会の中での心理を説明することができる		【到達目標】 精神保健福祉、支援者支援福祉、制度利用と心理的ケアを説明することができる						
7	【授業単元】 人の心の発達過程	15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 定期テスト 定期テストの解答解説						
	【到達目標】 人の心の発達過程を説明することができる		【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている						
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 中テスト 中テストの解答解説		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】					・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください				

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	未定			
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
1. 人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの課程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスパーバジョンについて理解する。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
ソーシャルワーク実践の基礎となる知識を習得する授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学修を行う。またソーシャルワークは人々の生活課題や社会問題の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中からこれらの課題や問題意識を持つことが求められる。					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 人と環境の相互作用に関する理論とソーシャルワーク 第1節 ソーシャルワーカーが学ぶ理論					【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの課程 アセスメント① 第1節 アセスメントの意義と目的 第2節 アセスメントの方法				
	【到達目標】 ・本科目の位置づけ、本講義の進め方を理解し、主体的な学びへの意識を醸成する。 ・ソーシャルワーカーが学ぶ理論のタイプを理解する。 ・ソーシャルワークの共通基盤とは何かを理解する。 ・ソーシャルワーク固有の視点と何かを考える。					【到達目標】 ・ソーシャルワークにおけるアセスメントの重要性について学ぶ ・生活者や生活への接近の方法としてのアセスメントについて学ぶ ・個人と社会環境への視点に基づくアセスメントについて学ぶ ・アセスメントを支える理論について学ぶ　・アセスメントの方法や構成要素について学ぶ				
	【授業単元】 第1章 人と環境の相互作用に関するソーシャルワーク 第2節 システム理論					【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの課程 アセスメント① 第2節 アセスメントの方法 第3節 アセスメントの留意点				
	【到達目標】 ・システム理論の基本的な考え方を理解する ・ソーシャルワークにおけるシステム理論の有用性を理解する。 ・システム理論を援用したソーシャルワーク実践の全体像を理解する。					【到達目標】 ・アセスメントに有効なマッピングの技法について学ぶ ・ソーシャルワークの固有性や専門性を表すアセスメントについて学ぶ ・アセスメントにおける関係者や当事者との協働的重要性について学ぶ				
	【授業単元】 第1章 人と環境の相互作用に関するソーシャルワーク 第3節 生態学理論					【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング① 第1節 プランニングの意義と目的 第2節 プランニングのプロセスと方法				
	【到達目標】 ・生態学の基本的な考え方を理解する。 ・エコシステムの視座と何かを理解する。 ・ライフモデル(ジャーメインとギッターマン)の考え方を理解する					【到達目標】 ・プランニングとは何かについて理解する ・ソーシャルワークではプランニングがどのように行われているか理解する ・ソーシャルワークにおけるプランニングの意義を理解する ・目的、目標の設定について理解する				
	【授業単元】 第1章 人と環境の相互作用に関するソーシャルワーク 第4節 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル					【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング② 第2節 プランニングのプロセスと方法 第3節 プランニングにおける留意点				
	【到達目標】 ・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの基本的な内容を理解する。 ・ソーシャルワーク実践とバイオ・サイコ・ソーシャルモデルの関係を理解する。					【到達目標】 ・計画内容の設定について理解する ・倫理的な実践のために留意すべきことを理解する ・包括的な支援のために連携や協働の重要性を理解する				
	【授業単元】 第1章 人と環境の相互作用に関するソーシャルワーク 第5節 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク					【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定				
5	【到達目標】 ・人の生活に生じる課題は「人と環境の相互作用」から生じることを理解する ・生活課題をミクロ・メゾ・マクロレベルのそれぞれのレベルから捉える視点を養う					【到達目標】 ・支援の実際における目的と方法、留意点について学ぶ				
	【授業単元】 第1章 人と環境の相互作用に関するソーシャルワーク 第6節 ソーシャルワークの目標と展開過程 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)					【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの課程 支援の終結と結果評価、アフターケア 第1節 支援の終結 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア				
6	【到達目標】 ・ソーシャルワークの目標について理解する ・ソーシャルワークの展開過程について、その概要を理解する ・人が他者から援助を受けるプロセスを学ぶ					【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー、クライエント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する　・結果評価の意義、視点、方法を理解する				
	【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク)					【授業単元】 ・定期試験 ・解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)				
7	【到達目標】 ・ケース発見の様々な形について学ぶ ・インボランティアー・クライエント・援助希求力の弱い人たちへの支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライエントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践におけるエンゲージメントの留意点を学ぶ					【到達目標】 ・定期試験 ・解説及び前期学習内容から出題 ・定期試験解説・前期学習目標の達成度の振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる				
	【授業単元】 中テスト 解説及び学習内容の振り返り					【成績評価の方法と基準】				
8	【到達目標】 ・前期第1回～第7回の学習内容から出題 ・中テスト解説・学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)					科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	未定		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの課程とそれに関係する知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワーク実践の基礎となる知識を習得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学修を行う。またソーシャルワークは人々の生活課題や社会問題の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中からこれらの課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業單元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ① 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ	9	【授業單元】 第10章 ケアマネジメント(マネジメント) 第1節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則 第2節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義と方法	【到達目標】 ・視点、視座、モデル、アプローチ等の意味合いを理解する ・ジェネラリストが実践モデル、アプローチを学ぶべき理由を理解する ・実践モデル、アプローチの特長、歴史的な概要、流れについて理解する ・生活モデル、治療モデル、ストレングスモデル					
	【到達目標】 ・ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの意味合いを理解する ・ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方		【到達目標】 ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の歴史、基本的な原則を学ぶ ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義を理解する ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)のモデルとプロセスを理解する	【授業單元】 第11章 グループを活用した支援 第1節 グループの意義と目的 第2節 グループワークの展開過程 第3節 グループワークとセルフヘルプグループ					
2	【到達目標】 ・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解する ・心理社会的アプローチ ・機能的アプローチ ・問題解決アプローチ	10	【到達目標】 ・グループワークが何を目的に実践されているのかを学ぶ ・グループ、プロセスを理解して実践のポイントを把握する ・グループの発達段階に応じた介入を理解する ・グループワークとセルフガループの区別を理解する	【授業單元】 第12章 コミュニティワーク 第1節 コミュニティワークの意義と目的 第2節 コミュニティワークの展開 第3節 コミュニティワークの理論的系譜とモデル					
3	【授業單元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ	11	【到達目標】 ・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解する ・課題中心アプローチ ・行動変容アプローチ ・認知アプローチ	【授業單元】 第13章 ソーシャルアドミニストレーション 第1節 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 第2節 組織介入、組織改善の実践モデル 第3節 組織運営における財源の確保					
4	【授業單元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ	12	【到達目標】 ・ソーシャルアドミニストレーションの概念と定義を理解する ・組織介入、組織改善の実践モデルを理解する ・組織運営における財源の種類を理解する	【授業單元】 第14章 ソーシャルアクション 第1節 ソーシャルアクションの概念とその意義 第2節 コミュニティ・オーガナイジング					
5	【授業單元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ	13	【到達目標】 ・ソーシャルアクションの概念と定義を理解する ・ソーシャルアクションの意義を理解する ・コミュニケーション・オーガナイジングの実例を学ぶ ・ソーシャルワークにおけるコミュニケーション・オーガナイジングの系譜を理解する	【授業單元】 第15章 スーパービジョンとコンサルテーション 第1節 スーパービジョンの意義、目的、方法 第2節 コンサルテーションの意義、目的、方法					
6	【授業單元】 第5章 ソーシャルワークの面接 第1節 面接の意義と目的 第2節 面接の方法と実際	14	【到達目標】 ・日常会話と面接の違いを理解する ・ソーシャルワークにおける面接の意義、目的を理解する ・ソーシャルワーク面接の形態や手段、場所の多様性、基本的留意点を理解する ・具体的な面接技法を理解する	【授業單元】 ・定期試験 ・解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)					
7	【授業單元】 第9章 ソーシャルワークの記録 第1節 記録の意義と目的 第2節 記録の内容 第3節 記録のフォーマット	15	【到達目標】 ・専門職として記録を作成する意義と目的を理解する ・専門職の記録に求められる倫理的責任、求められる内容を理解する ・様々な記録のフォーマットを学ぶ ・根拠ある記録の書き方のポイントを学ぶ	【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
8	【到達目標】 ・前期第1回～第7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)			【履修に当たっての心構え・留意点】 ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずはソーシャルワーカーとしての考え方、語り、行動する際のよりどころとなる理論的知識を学ぶにから始まります。他の科目で学習した知識と相互に關連付けて理解を深めていきましょう					

授業概要

授業概要

授業概要

授業概要

科目名	児童・家庭福祉	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	富永 あかり				
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業形態	講義	総単位数	4 単位	総時間数	60 時間		
【授業を通じての到達目標】											
子どもの最善の利益を実現させるため、どのような法律や制度、アプローチ方法があるかを理解できる。 また、現代の制度や法律等がどのような歴史的変遷を経ているかを理解した上で、現代の「子ども」「家庭」「子どもを取り巻く環境」等における様々な問題(課題)に対してどのような支援策があるかを具体的に説明できる。											
【学習内容】											
様々な児童福祉施設や生活保護のケースワーカー(公務員)として子どものいる家庭を支援し、現在はスクールソーシャルワーカーとして活動する教員が、教科書、レジュメ、事例検討などを活用しながら単元に沿って展開をしていく。											
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】						
3最新 社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉 ／一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 参考文献:入門スクールソーシャルワーク論/ミネルヴァ書房					予習:教科書を一読してから、授業に参加すること (確認してほしいキーワードはコマシラバスに記載しますので、そこを中心に読みなおしましょう) 復習:復習クイズに答える準備をしておきましょう						
コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画		
1	【授業単元】 子ども・子育て支援 子ども子育て支援にかかる実践 【到達目標】 日本の子ども・子育て支援施策の概要を理解できる。 子育ち及び子育てにおいて抱えやすい困難について理解する。	9	【授業単元】 ひとり親家庭への支援、DVと女性支援 ひとり親家庭への支援にかかる実践、女性福祉にかかる実践 【到達目標】 ひとり親が抱えがちな問題(課題)を理解できる。 DV問題、性被害や性的に搾取されている女性に対する支援を知ることができる。	10	【授業単元】 スクールソーシャルワーク 教育との協働にかかる実践 【到達目標】 学校におけるソーシャルワーカーの役割について説明できる。	11	【授業単元】 少年非行、若者支援 若者の自立支援にかかる実践 【到達目標】 若者の抱える困難や課題とその背景を考え、若者が社会とかかわる重要性を説明できる。	12	【授業単元】 障害のある子どもへの支援 障害児にかかる実践 【到達目標】 障害児支援は、子どもを取り巻く家族や支援者への支援も重要であることを理解する。	13	【授業単元】 ソーシャルアクション 当事者参画とアドボカシーに関わる実践 【到達目標】 子どもが権利主体として、意見や思いが聽かれることの重要性について述べることができる。
2	【授業単元】 母子保健 母子保健や医療との協働による実践 【到達目標】 母子保健法の目的や対象、様々な事業の考え方などを理解できる。 社会福祉(児童)の立場で母子保健との情報共有の意義を説明できる。	10	【授業単元】 スクールソーシャルワーク 教育との協働にかかる実践 【到達目標】 学校におけるソーシャルワーカーの役割について説明できる。	11	【授業単元】 少年非行、若者支援 若者の自立支援にかかる実践 【到達目標】 若者の抱える困難や課題とその背景を考え、若者が社会とかかわる重要性を説明できる。	12	【授業単元】 障害のある子どもへの支援 障害児にかかる実践 【到達目標】 障害児支援は、子どもを取り巻く家族や支援者への支援も重要であることを理解する。	13	【授業単元】 ソーシャルアクション 当事者参画とアドボカシーに関わる実践 【到達目標】 子どもが権利主体として、意見や思いが聽かれることの重要性について述べることができる。		
3	【授業単元】 保育 保育における実践 【到達目標】 保育に関する制度の流れや最近の動向を理解する。 保育におけるソーシャルワーク実践の意義と方法を説明できる。	11	【授業単元】 少年非行、若者支援 若者の自立支援にかかる実践 【到達目標】 若者の抱える困難や課題とその背景を考え、若者が社会とかかわる重要性を説明できる。	12	【授業単元】 障害のある子どもへの支援 障害児にかかる実践 【到達目標】 障害児支援は、子どもを取り巻く家族や支援者への支援も重要であることを理解する。	13	【授業単元】 ソーシャルアクション 当事者参画とアドボカシーに関わる実践 【到達目標】 子どもが権利主体として、意見や思いが聽かれることの重要性について述べることができる。	14	【授業単元】 中間テストの解説 第9回からの振り返り 【到達目標】 #REF!	15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 後期の授業における重要事項を理解し、自分がわかったこととわからなかったことを明確にすることができる。
4	【授業単元】 要保護児童等と在宅支援 児童虐待にかかる実践 その1 【到達目標】 要支援児童等とそのかかえている課題や在宅支援における他機関連携と支援のポイントについて理解できる。 子どもの利益を図ることと保護者を支援することの関係や関係機関との連携で生じる葛藤への対処について考察できる。	12	【授業単元】 障害のある子どもへの支援 障害児にかかる実践 【到達目標】 障害児支援は、子どもを取り巻く家族や支援者への支援も重要であることを理解する。	13	【授業単元】 ソーシャルアクション 当事者参画とアドボカシーに関わる実践 【到達目標】 子どもが権利主体として、意見や思いが聽かれることの重要性について述べることができる。	14	【授業単元】 中間テストの解説 第9回からの振り返り 【到達目標】 #REF!	15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 後期の授業における重要事項を理解し、自分がわかったこととわからなかったことを明確にすることができる。		
5	【授業単元】 児童虐待にかかる支援 児童虐待にかかる実践 その2 【到達目標】 児童虐待の定義と現状を理解できる。 児童虐待への対応が実際どのように行われているかを理解する。	13	【授業単元】 ソーシャルアクション 当事者参画とアドボカシーに関わる実践 【到達目標】 子どもが権利主体として、意見や思いが聽かれることの重要性について述べることができる。	14	【授業単元】 中間テストの解説 第9回からの振り返り 【到達目標】 #REF!	15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 後期の授業における重要事項を理解し、自分がわかったこととわからなかったことを明確にすることができる。				
6	【授業単元】 社会的養護 社会的養護にかかる実践 【到達目標】 社会的養護の仕組みを理解する。 社会的養護における権利擁護を理解する。 子どもが社会的養護に至るプロセス、その後のケア、家族再統合の支援を理解できる。	14	【授業単元】 中間テストの解説 第9回からの振り返り 【到達目標】 #REF!	15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 後期の授業における重要事項を理解し、自分がわかったこととわからなかったことを明確にすることができる。						
7	【授業単元】 今までの振り返り 【到達目標】 第1回から第6回で学んだ要点を理解し、具体的に説明することができる。	15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 後期の授業における重要事項を理解し、自分がわかったこととわからなかったことを明確にすることができる。								
8	【授業単元】 中間テスト / 子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク、子ども家庭福祉におけるアセスメント 【到達目標】 介入と支援の意味、調査の基本を理解できる。 アセスメントの基本と子ども家庭福祉において特に重視すべき支援を理解できる。	16	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】											
事例が多くなるので、事例を一度確認した上で授業に臨みましょう。また、様々なニュースや新聞に心を持つ、自分がソーシャルワーカーとして何ができるかを考えておきましょう。											

授業概要

科目名	貧困に対する支援	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	吉成 孝夫		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。 ③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 福祉事務所などでの行政事務経験はないが、2008年12月の年越し派遣村の活動や、墨田区でボランティアとして、ホームレス支援活動に参加した経験がある。貧困や格差問題の解決は今や日本社会の最重要課題である。問題を抱える人々の視点からこれらの問題に接近する態度を共に学びたい									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座 4貧困に対する支援(中央法規)					・必ず学習プリントを読み返し、授業の振り返りを行う ・小テストは何度も復習し直し定着を図る				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション				9	【授業単元】 生活保護の財源と予算(教科書第4章第8節)			
2	【到達目標】 ①本講座で具体的に何を学ぶのかを理解し、学習意欲が持てるようになる ①日本及び諸外国の公的扶助制度を概観する中で、公的扶助の概念を理解する ②公的扶助制度と社会保障制度の違いを理解 【授業単元】 貧困・低所得者問題と社会的排除(教科書第2章)				10	【到達目標】 ①生活保護費の基本的性格を理解する ②生活保護費に関する費用を理解する ③国家予算と保護費の関係を理解する 【授業単元】 最低生活保障水準と生活保護基準(教科書第5章)			
3	【到達目標】 ①イギリスを中心とした歴史的背景と内容及び社会構造上の意義について理解する ②1834年の新設貧賤法の歴史的背景とその内容及びその影響について学ぶ ③資本主義経済体制の進展の中で、貧困問題の解決に救貧法では解決できず、やがて様々な要因の下で、公的扶助が誕生、さらに現代的風潮を理解する 【授業単元】 公的扶助制度の歴史①—欧米—(教科書第3章・第1節)				11	【到達目標】 ①最低生活保障水準の考え方を理解する ②生活保護基準について理解する ③最低生活および生活保護最低基準の実際を学ぶ 【授業単元】 生活保護の動向(教科書第6章)			
4	【到達目標】 ①日本近代史における救貧法の歴史的変遷とその内容を理解する ②次世界大戦後の生活保護法の制定とその内容及び意義について理解する 【授業単元】 公的扶助制度の歴史②—日本—(教科書第3章・第2節)				12	【到達目標】 ①中央政府・地方政府の役割を理解する ②福祉事務所の役割を理解する ③社会福祉主事の役割を理解する 【授業単元】 生活保護の運営・実施体制(教科書第8章)			
5	【到達目標】 ①社会保障体系の中の公的扶助の位置と役割を理解する ②セーフティネット機能としての公的扶助の意義を理解する ③ショナルミニマムとしての公的扶助の意義と役割を理解する 【授業単元】 公的扶助の役割と意義(教科書第1章第2節)				13	【到達目標】 ①生活困窮者自立支援法の概要とその事業について理解する ②生活福祉資金制度の成立過程とその概要について理解する ③社会手当制度の沿革および内容について理解する 【授業単元】 低所得者対策の概要①(教科書第7章第1節～第3節pp163～186)			
6	【到達目標】 ①生活保護法の目的を理解する ②生活保護法の基本原理を理解する ③保護の原則を理解する 【授業単元】 生活保護制度の仕組み①(第4章第1節～第2節)				14	【到達目標】 ①生活保護制度における相談援助活動の特徴とプロセスを理解する ②多職種との連携・協同について理解する ③相談援助活動の具体例を通して実際の援助例を学び理解を深める。 【授業単元】 貧困・低所得者に対する相談援助活動(教科書第9章)			
7	【到達目標】 ①生活扶助をはじめとした8種類の扶助について理解する ②生活保護における方法の意味を理解する ③保護施設の概要と種類及び主な役割を理解する 【授業単元】 保護の種類・内容・方法及び保護施設(第4章第3節～第4節)				15	【到達目標】 これまで学んだ知識を試験問題に取り組む中で定着させる 【授業単元】 定期試験 リラクゼーション			
8	【到達目標】 ①被保護者の権利と義務(教科書第4章第5節～第7節) ②いわゆる不正受給問題についての実態を調べ、どうあるべきかを学ぶ ③不服申し立て及び行政事件訴訟について理解する 【履修に当たっての心構え・留意点】 勉強は何よりも言葉の定義から始まるので、絶えずわからない言葉が出てきたら、国語辞典などを利用して意味内容を理解するよう努めてください。また、漠然と勉強するのではなく、日々の出来事と結び付け、疑問を持つように訓練することが大切です。					【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			

授業概要

科目名	現代の精神保健の課題と支援	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	福井博一		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①精神保健福祉士として、さまざまな精神保健の課題について理解し、説明することができる。 ②あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に対して、精神保健福祉士として支援するための知識・方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、クライエントや利用者とかかわるために必要とされる、精神保健の課題と支援に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「現代の精神保健の課題と支援」(中央法規)					授業内容と、実習やアルバイト、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、精神保健の課題と支援における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画	回	授業計画						
1	【授業単元】 ・オリエンテーション	9	【授業単元】 ・中テスト返却と講評 ・精神保健における家族の課題と支援～その1～						
2	【到達目標】 ・精神保健の課題と支援の目標・予定・進め方について理解できる。 ・国家試験過去問の傾向と対策について理解することができる。 ・精神保健とは、ということについて理解し、説明することができる。	10	【到達目標】 ・返却・講評された中間試験を振り返り、後半の課題を明確にことができる。 ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その1～。						
3	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その1～	11	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その2～						
4	【到達目標】 ・対人援助における想像力について理解し、説明することができる。	12	【到達目標】 ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その2～。						
5	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その2～	13	【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その3～						
6	【到達目標】 ・社会・時代の変化と精神保健の課題の変化について考え、理解し、説明することができる。	14	【到達目標】 ・思春期の家族関係・友人関係・恋愛関係について理解し、説明することができる。 ・自らの人間関係について振り返ることができる。						
7	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その3～	15	【授業単元】 ・精神保健における性行動への対応について理解し、説明することができる。						
8	【到達目標】 ・社会的孤立の問題について理解し、説明することができる。		【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その4～						
	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その4～		【到達目標】 ・性と心の結びつきについて理解し、説明することができる。						
	【到達目標】 ・社会的貧困の問題について理解し、説明することができる。		【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その5～						
	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その5～		【到達目標】 ・性別違和について理解し、説明することができる。						
	【到達目標】 ・精神保健の課題と支援の歴史について理解し、説明することができる。		【授業単元】 ・精神保健における家族の課題と支援～その6～						
	【授業単元】 ・精神保健の概要と課題～その6～		【到達目標】 ・性別違和の当事者の生きづらさとその支援について理解し、説明することができる。						
	【到達目標】 ・エリクソンのライフサイクルについて理解し、説明することができる。		【授業単元】 ・定期試験						
	・各発達段階の課題について理解し、説明することができる。		【到達目標】 ・前期14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。						
	【履修に当たっての心構え・留意点】		【成績評価の方法と基準】						
	・つねに現場を意識して、クライエントや利用者とどうかかわるかを想定しながら授業に参加してください。		・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。						
			・試験は筆記試験で行う。						
			・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。						

授業概要

授業概要

科目名	精神保健福祉の原理	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	安部 直美		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
下記7点を、本科目の到達目標とする。 ①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容を踏まえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。④精神障害者への関わりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 精神保健福祉士として急性期の総合病院で医療ソーシャルワーカーの実務にあたってきた教員が、ソーシャルワーカーとして基盤となる価値観や理念について現場での体験やエピソードを交えながら具体的にわかりやすく伝える授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理 中央法規					授業中に行った問題(実際の国家試験で出題された問題や過去の模擬試験から引用)や資料を用いて復習を行う。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 講義オリエンテーション	9	【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造①						
2	【到達目標】 『精神保健福祉の原理』の授業の目的について説明できる。 精神保健福祉士がどのような仕事をするのかイメージすることができる。	10	【到達目標】 諸外国における精神障害者排除の歴史的事実について説明することができる。						
3	【授業単元】 障害者福祉の理念と歴史的展開①	11	【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造②						
4	【到達目標】 「障害」とは何かを考え、「障害者福祉の理念がどのように変遷してきたのかを説明することができる。	12	【到達目標】 精神障害の人権保障に関する国際的な取り組みについて説明することができる。						
5	【授業単元】 障害者福祉の理念と歴史的展開②	13	【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造③						
6	【到達目標】 日本において、精神障害者福祉がどのように展開されてきたのか概要を説明することができる。	14	【到達目標】 明治以降の日本において、精神障害者に係る施策の動向に影響を与えた各種事件の概要を理解し説明することができる。						
7	【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念①	15	【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造④						
8	【到達目標】 各制度における「精神障害者」の定義を説明し、「精神障害者」の定義の変遷について説明することができる。		【到達目標】 精神障害者に係る「排除」や「社会的障壁」とは何なのかを考え、生み出す要因と構造を考えることができる。						
	【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念②		【到達目標】 精神障害者に係る「排除」や「社会的障壁」を除去するために何ができるのかを考え説明することができる。						
	【到達目標】 国際生活機能分類(ICF)とは何か、説明することができる。		【授業単元】 精神障害者と精神障害者の概念③						
	【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念④		【到達目標】 精神障害について構造的に理解し、精神障害の障害特性について、生活場面を想定しながら具体的に説明することができる。						
	【到達目標】 精神障害に対する近年の世の中の動向について理解し、説明することができる。		【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念⑤						
	【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念⑥		【到達目標】 精神障害について構造的に理解し、精神障害の障害特性について、生活場面を想定しながら具体的に説明することができる。						
	【到達目標】 精神障害に対する近年の世の中の動向について理解し、説明することができる。		【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念⑦						
	【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念⑧		【到達目標】 精神障害に対する近年の世の中の動向について理解し、説明することができる。						
	【履修に当たっての心構え・留意点】		【成績評価の方法と基準】						
	精神保健福祉士の基礎を学びながら、他の人とのコミュニケーションを通じてソーシャルワークについての理解を深めることを目的としています。授業内でお互いに安心して学び合うことができるよう努めます。		毎回の小テストは5点満点、中テストは15点満点とし、合計点数を2で割った点数と定期テストの60点を合計して100点満点のうちの何点かで評価する。小テスト、中テストでは記号選択式、○×問題、記述問題などを授業の内容に応じて適宜出題する。グループワークなどで課題に取り組む場合はその完成度で評価する可能性もある。定期テストは5択の選択式問題と記述問題を組み合わせて出題する。記述問題については自由な論述を期待するが授業で学んだことを踏まえていることが大切で、その内容がソーシャルワーカーとしての視点とかけ離れている場合には減点の対象とする。						

授業概要

授業概要

科目名	精神障害リハビリテーション論	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	伊藤 純子		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

- ①精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割を理解することができる。
 - ②精神科リハビリテーションの理念と方法を説明できる。
 - ③精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係性を理解することができる。
 - ④当事者や家族に対する理解を深めることができる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

理論と実践のギャップを踏まえ、基礎的な知識を現場での実践例や当事者の体験談等のエピソードを交え、実践的な理解が促進されるよう、わかりやすい授業を行う。また、教員の現場経験から、精神保健福祉士として働く上でのやりがいやたのしさを伝えることに重きを置く。

【使用教科書・教材・参考図書】

最新 精神保健福祉士養成講座
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編
精神障害リハビリテーション論

【授業時間外における学習】

授業で学んだ知識を仲間と共有したり、日常生活や対人関係において活用する

コマ	授業計画	コマ	授業計画
	【授業単元】テキストP2～8 (1)科目オリエンテーション (2)精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク	9	【授業単元】テキストP139～161 社会的リハビリテーションプログラム
1	【到達目標】 (1)本科目の概要と意義を理解することができる (2)精神障害リハビリテーションの要素と特徴を理解することができる (3)精神保健ソーシャルワークの機能を理解することができる (4)精神障害リハビリテーションと精神保健ソーシャルワークの違いを理解することができる	10	【授業単元】テキストP183～173 教育的リハビリテーションプログラム
2	【授業単元】テキストP9～32 (1)精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 (2)精神障害リハビリテーションの理念と定義	11	【到達目標】 特別支援教育の実施範囲について理解を深めることができる 特別支援教育における各プログラムについて理解を深めることができる 障害のある学生への支援について学ぶことができる
3	【授業単元】テキストP33～52 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション	12	【授業単元】テキストP174～195 家族支援プログラム
4	【到達目標】 (1)精神障害リハビリテーションの原理を理解することができる、(2)ソーシャルワークの価値を理解することができる、 (3)精神障害リハビリテーションにおける多職種連携について理解することができる、(4)リハビリテーションの理念と定義を理解することができる、(5)精神障害リハビリテーションに至る歴史的経緯と定義について理解することができる、 (6)医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションの考え方について理解することができる	13	【授業単元】テキストP196～206 リハビリテーションに用いられるその他の手法・プログラム
5	【授業単元】P54～75 精神障害リハビリテーションの対象 チームアプローチ	14	【到達目標】 マイドームフルネスの根柢とエクササイズを理解し、実際に活かすことができる オープンダイローグの考え方を理解することができる リカバリー・カレッジについて理解することができる
6	【到達目標】 (1)精神障害リハビリテーションの対象について理解することができる、(2)精神障害者の法制度上の位置づけについて理解することができる、(3)精神障害の特性について理解することができる、 (4)チームアプローチと多職種連携の概要を把握することができる、(5)各専門職の役割を理解する、(6)チームアプローチの方法や課題を学ぶことができる	15	【授業単元】P208～231 精神障害リハビリテーションの動向と実際
7	【授業単元】テキストP76～88 精神障害リハビリテーションのプロセス		【到達目標】 自身の経験を活かして活動するピアサポートの多様性を理解することができる 精神障害者の家族を支援する活動の意義を学ぶことができる ケアラーがケアを行うことによって受ける影響について理解を深めることができる
8	【授業単元】テキストP90～111 医学的リハビリテーションプログラム		【授業単元】 各授業の振り返り
9	【到達目標】 (1)精神科医療機関で実施されるリハビリテーションプログラムの目的と内容を理解することができる、(2)精神科医療機関で行われているリハビリテーションプログラムにかかる専門職や診療報酬のための施設基準や算定基準について理解することができる、(3)各プログラムにおける精神保健福祉士の関与について理解することができる		【到達目標】 各授業で学んだことを振り返り整理すると共に、学んだことや理解したことを記憶に定着させることができる 定着させた概念や手法を実際に活かすことに挑戦することができる 定期試験に備えることができる
10	【授業単元】テキストP112～138 職業的リハビリテーションプログラム		【授業単元】 定期試験
11	【到達目標】 (1)職業リハビリテーションの概要と援助過程を理解することができる (2)精神障害における職業リハビリテーションの支援対象を把握することができる (3)職業リハビリテーションプログラムの内容と実際を学ぶことができる		【到達目標】 第1回から第14回までの授業を振り返り、効果測定で理解度を知ることができる
12	【授業単元】テキストP2～138 中テスト		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。
13	【到達目標】 第1回から第7回までの授業を振り返り、効果測定で理解度を知ることができる		
14	【履修に当たっての心構え・留意点】 ①知識の定着に向けてキーとなる概念やポイントとなるキーワードを理解し、自分の考えを述べられることを目標とする。 ②小テストでは、各回のレジュメで最低限覚えておいてほしいキーとなる概念やキーワードを中心に出題する。		

授業概要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	小倉 明子		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

社会福祉士の役割と意義について知り、相談援助の定義と構成要素についても学ぶ。また、ソーシャルワークの概念を理解し、その基盤となる考え方や歴史的な形成過程、そして現場で実践にあたる際に重要な倫理についても理解を深める。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

社会福祉士として医療ソーシャルワーカーやケアマネジャー、スクールソーシャルワーカーの実務経験のある教員が、ソーシャルワーカーとして基盤となる価値観や理念について現場での体験やエピソードを交えながら具体的にわかりやすく伝える授業を行う

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）		クラスメートが交代制で社会福祉に関する新聞やインターネット上の記事を持ち寄り、授業で発表する取り組みを行うため、事前にその準備をすることが年に一回程度求められる	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション ソーシャルワーク専門職である社会福祉士、精神保健福祉士</p> <p>【到達目標】 ・社会福祉士、精神保健福祉士がソーシャルワーク専門職の国家資格であることを理解する ・社会福祉士精神保健福祉士が期待されるものを理解する</p>	9	<p>【授業単元】 ソーシャルワークの源流と基礎確立期</p> <p>【到達目標】 ・社会的に弱い立場立場にあった人たちの支援の歴史を知る ・産業革命とソーシャルワークの関係を理解する</p>
	<p>【授業単元】 社会福祉士及び介護福祉士法と精神保健福祉士法について説明できるようになる</p> <p>【到達目標】 ・社会福祉士及び介護福祉士法と精神保健福祉士の制度創設の経緯・背景について理解できる ・同制度の法的定義と義務について理解する</p>		<p>【授業単元】 ソーシャルワークの発展期</p> <p>【到達目標】 ・診断主義と機能主義について理解する ・グループワークとコミュニティオーガニゼーションの発展について理解する</p>
2	<p>【授業単元】 社会福祉士及び精神保健福祉士法の専門性</p> <p>【到達目標】 ・社会福祉士や精神保健福祉士の仕事ぶりについて模擬事例をもとにイメージできるようになる ・ソーシャルワーク専門職として必要な知識や技術価値を習得する必要</p>	11	<p>【授業単元】 ソーシャルワークの展開期と統合化</p> <p>【到達目標】 ・ソーシャルワークのすそ野の広がりに関連する生活モデルを理解する ・ジェネラリスト・ソーシャルワークへの移行について理解する</p>
	<p>【授業単元】 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー</p> <p>【到達目標】 ・ソーシャルワーカーのコンピテンシーについて理解する ・コンピテンシーを身につけるために学ぶべき事柄を確認する</p>		<p>【授業単元】 日本におけるソーシャルワークの形成過程</p> <p>【到達目標】 ・救済から社会事業への流れとその展開について理解する ・戦後のソーシャルワークの導入とその展開について理解する</p>
3	<p>【授業単元】 ソーシャルワークの定義</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワーク専門職のグローバル定義を学ぶ ・ソーシャルワークの任務、諸原理、基盤となる知や実践の様子を学ぶ</p>	13	<p>【授業単元】 専門職倫理の概念</p> <p>【到達目標】 ・ソーシャルワーカーの専門職倫理とは何かを理解する ・ソーシャルワークにおける専門職倫理の必要性について理解する</p>
	<p>【授業単元】 ソーシャルワークの構成要素</p> <p>【到達目標】 ・クライエントとクライエントシステムについて学ぶ ・ソーシャルワーカーについて学ぶ ・社会資源について学ぶ</p>		<p>【授業単元】 ・ソーシャルワーカーの専門職倫理とは何かを理解する ・ソーシャルワークにおける専門職倫理の必要性について理解する</p> <p>【到達目標】 ・ソーシャルワーカーが経験する倫理的ジレンマについて理解する ・ソーシャルワーカーによる倫理的判断過程を学ぶ</p>
4	<p>【授業単元】 ソーシャルワークの原理</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークとは何か、自分の言葉で説明できるようになる ・社会のあり方をソーシャルワークの視点で見直し、その必要性を理解する</p>	15	<p>【授業単元】 9～14回までの復習をした上で定期テストを実施し、さらに前期の振り返りを行う</p> <p>【到達目標】 ・定期テストの実施を通してソーシャルワークの基盤と専門職についての基礎的な事項について自身の中に定着をさせる</p>
	<p>【授業単元】 ソーシャルワークの理念 1～7回までの授業の総復習</p> <p>【到達目標】 ・自身の価値観と比較しながら、ソーシャルワーカーの理念の意味を理解する ・ソーシャルワーカーの法的根拠やその概念などについて中テストを通して整理する</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。</p> <p>毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>
8	【履修に当たっての心構え・留意点】 社会の出来事に关心を持ち、湧き上がる感情は個人的な考えなのか、ソーシャルワーカーとしての視点なのかを意識しながら学び続ける事が望ましい。積極的な発言を歓迎する。		

授業概要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	小倉 明子		
学科コース	社会福祉科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

ソーシャルワーク専門職の概念と範囲を学びながら、それがミクロ・メゾ・マクロレベルでどのように展開されるのかを理解する。また総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容を、現場で活躍する様々なソーシャルワーカーの実践の形を通して学びとり、自身がソーシャルワーカーとして働くビジョンを持つようになる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

社会福祉士として医療ソーシャルワーカーやケアマネジャー、スクールソーシャルワーカーの実務経験のある教員が、ソーシャルワーカーとして基盤となる価値観や理念について現場での体験やエピソードを交えながら具体的にわかりやすく伝える授業を行う

【使用教科書・教材・参考図書】	【授業時間外における学習】
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）	クラスメートが交代制で社会福祉に関する新聞やインターネット上の記事を持ち寄り、投票で発表する取り組みを行うため、事前にその準備をすることが年に一回程度求められる

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】ソーシャルワーカーの倫理綱領の内在化</p> <p>【到達目標】・社会福祉士会の倫理綱領を紐解き、解釈する ・倫理綱領を自分たちの言葉に置き換えてその価値観を内在化できるようになる</p>	9	<p>【授業単元】ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容</p> <p>【到達目標】・多機関・多職種による包括的支援体制とソーシャルサポートネットワーキングについて理解する ・社会資源となる人や組織等との連携・協働について理解する</p>
	<p>【授業単元】ソーシャルワーク専門職の概念と範囲</p> <p>【到達目標】・ソーシャルワーカーが専門職であるための条件を学ぶ ・社会生活支援、地域生活支援の専門性とその必要性について学ぶ</p>		<p>【授業単元】総合的かつ包括的な支援についての実際の在り方について</p> <p>【到達目標】・DVDを視聴し、様々な分野や地域での総合的かつ包括的支援の多様な在り方を学ぶ</p>
3	<p>【授業単元】社会福祉士の職域と役割</p> <p>【到達目標】・社会福祉士が働く職域の拡大について学ぶ ・社会福祉士が活躍する職域と役割について学ぶ</p>	11	<p>【授業単元】多職種連携及びチームアプローチの意義と内容</p> <p>【到達目標】・多職種連携とチームアプローチの意義と内容を理解する ・ジェネラリストの視点から多職種連携及びチームアプローチを理解する</p>
	<p>【授業単元】多様な組織・機関・団体における専門職</p> <p>【到達目標】ソーシャルワークの実践を担う職域や職場について学ぶ ・社会福祉行政や民間の機関や施設で働く専門職について学ぶ</p>		<p>【授業単元】多職種連携及びチームアプローチの実際</p> <p>【到達目標】・多職種連携の実際の在り方について特にスクールソーシャルワーカーの実際</p>
5	<p>【授業単元】諸外国の動向</p> <p>【到達目標】・先進国のソーシャルワーカーの制度について学ぶ ・世界には様々なソーシャルワーカーの仕事の多様性があることを知る</p>	13	<p>【授業単元】臨床現場で働くソーシャルワーカーの実践</p> <p>【到達目標】・現場で実践にあたるソーシャルワーカーの方をゲストスピーカーとしてお招きし、お話を伺って自身がソーシャルワーカーとして働く場合の醍醐味や葛藤について具体的にイメージできるようになる</p>
	<p>【授業単元】ミクロ・メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象</p> <p>【到達目標】・ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロの意味と対象を理解する ・ミクロ・メゾ・マクロのレベルの相互の関係性を理解する</p>		<p>【授業単元】・1年間の総復習</p> <p>【到達目標】・グループごとに各単元をまとめ、発表しあうことで1年間に学んだポイントを整理し、知識として定着させられる</p>
7	<p>【授業単元】ミクロ・メゾ、マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開</p> <p>【到達目標】・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に基づく実践のあり方について知る ・個人と環境及び両者の相互関係に働きかける支援について理解する</p>	15	<p>【授業単元】9回～14回までの総復習をした上で定期テストを実施する</p> <p>【到達目標】定期テスト実施後に答え合わせという形で1年間に学んだ知識を振り返り、学習の意義を理解できるようになる</p>
	<p>【授業単元】総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点</p> <p>1～7回までの授業の総復習</p> <p>【到達目標】・総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークを理解する ・ソーシャルワーカーの専門職としての多様な在り方について中テストを通して整理する</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>また、試験は筆記試験で行う。</p> <p>毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>
【履修に当たっての心構え・留意点】			
ソーシャルワーカーの専門職として実践していく上の価値観を形成していくことを意識し、学び続ける事が望ましい。仲間との意見交換を恐れず、積極的に発言していくことを歓迎する。			

授業概要

授業概要

科目名	情報リテラシーⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	株式会社 ブレーンスタッフコンサルタンツ
学科コース	社会福祉科	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位 総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・スクラッチを用いて問題解決型思考を学ぶことができる ・情報を扱うための知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Excelを用いた統計処理(関数や機能)を行って研究発表に活かせる 							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
滋慶学園グループの企業である(株)ブレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
オリジナルのe-learningテキスト				e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する			
コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】Word差込印刷 【到達目標】差込印刷機能を利用して、アンケート依頼文や宛名ラベルを作成できる	9	【授業単元】初級データサイエンス(統計編)1 【到達目標】データの特徴を数値化できる(平均、分散、標準偏差)	10	【授業単元】初級データサイエンス(統計編)2 【到達目標】データの特徴を視覚化できる1(基本統計量を求める、ヒストグラムの作成)	11	【授業単元】初級データサイエンス(統計編)3 【到達目標】データの特徴を視覚化できる2(散布図、相関係数を求める)
2	【授業単元】Word応用 長文加工 【到達目標】長文作成における必要な操作ができる	12	【授業単元】初級データサイエンス(統計編)4 【到達目標】統計的検定を実施できる1	13	【授業単元】初級データサイエンス(統計編)5 【到達目標】統計的検定を実施できる2	14	【授業単元】初級データサイエンス試験対策 【到達目標】初級データサイエンス1-5で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる
3	【授業単元】プログラミング入門 【到達目標】スクラッチを使ってプログラミングの基礎を学ぶことができる	15	【授業単元】初級データサイエンス定期試験、振り返り 【到達目標】設問指示に従った操作を実践して、統計処理できる				
4	【授業単元】プログラミング体験 【到達目標】スクラッチを使って簡単なゲームを作ることができる						
5	【授業単元】情報倫理 (モラル/セキュリティ編) 【到達目標】情報化社会のモラルとセキュリティについて正しく理解できる						
6	【授業単元】情報倫理 (ネット編) 【到達目標】ネット社会に潜む危険と対策について正しく理解できる						
7	【授業単元】情報倫理 (モバイル編) 【到達目標】モバイル機器の活用と管理について正しく理解できる						
8	【授業単元】SNSセキュリティ研修+中テスト 【到達目標】Webによるコミュニケーションについて正しく理解できる						
【履修に当たっての心構え・留意点】				【成績評価の方法と基準】			
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください				科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はPCを使用しExcel統計処理を実践する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			

授業概要

科目名	地域連携プログラム指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	野口和道		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間

【授業を通じての到達目標】

地域連携プログラムや学校行事に関連した準備や振り返りを行うとともに、そのプロセスにおいて既習内容と連関させる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をするとともに、学校行事に学生が主体的な姿勢で参加できるようにファシリテートを行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。

【授業時間外における学習】

実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。

授業計画

【地域連携プログラムの実習内容の振り返りとシェア】

- ・実習プログラム参加に際して、日誌記入の仕方、実習先での利用者・職員との基本的な関わり方等について最低限必要なことを理解するとともに、状況に応じた行動ができるようになる。
- ・実習プログラムにおいて日々体験した内容を言語化し、クラス内シェアをするとともに、他の学生の活動や気付きにふれ、次回の行動につなげていく。

☆クラスづくり

クラス目標の到達を目指すため、それぞれが個人の目標を通して自分自身を見つめる授業を行う。

【履修に当たっての心構え・留意点】

【成績評価の方法と基準】

グループワークやペアワーク等で、主知的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。	記述試験とする。 成績の評価については、学則に準ずる。
---------------------------------------	--------------------------------

授業概要

科目名	地域連携プログラム	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	野口和道		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	8 単位	総時間数	240 時間

【授業を通じての到達目標】

地域における社会福祉・精神保健福祉領域の多様な対象の支援に必要な基礎を、講義・演習科目と福祉現場体験を通して身につける。
3年次の「相談援助実習」、4年次の「精神保健福祉援助実習」の学びを補完、強化し、卒業研究の学びにつなげるのオリジナルプログラムとして行う。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。

【授業時間外における学習】

実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。

授業計画

社会福祉・精神保健福祉領域に特化した施設実習プログラム

1年次授業で学んだ知識・技術を、その実習先において必要な援助に変換して実践する。(スペシフィックソーシャルワークの実践)

★ねらい

- ・個別支援計画を立案する力につなげるコミュニケーション力の強化
- ・2年次3年次4年次の「相談援助実習」に向けた記録のトレーニング

★取り組む内容

基本的なコミュニケーション／人間形成／利用者理解

★プログラム内容

社会福祉・精神保健福祉分野等の協力施設での現場体験(実習)

★実施日程

原則木曜日

※前・後期は異なる事業所

※後期は、前期内容を踏まえた上で、精神保健福祉領域や各施設の抱えている課題を自発的に発見し、その課題を解決する考え方・姿勢を持ち、限られた時間内にて最善の解決方法を模索する。

活動を通した振り返り・活動報告会

事業所実習プログラムで取り組んだ内容については、後期終了時に活動報告会にてプレゼンテーションを行う。

【履修に当たっての心構え・留意点】

実習時には感染症予防等もふまえ、体調管理に留意する必要がある。
また、主体的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。

【成績評価の方法と基準】

日誌、月報及び活動報告会のプレゼンテーション及び個人の振り返りを通して評価を行う。
評価の基準等は学則に準ずる。

授業概要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	内藤 博幸		
学科コース	社会福祉科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。

回	授業計画	回	授業計画
1	<p>【授業単元】 イギリスでの社会福祉の源流 エリザベス救貧法～トイビーホール P16～33</p> <p>【到達目標】 ・エリザベス救貧法の内容が説明できるようになる。 ・新救貧法の3つの原則を上げることができる。 ・トイビーホール設置の目的と事業内容を説明できる。</p>	9	<p>【授業単元】 現代社会の変化と福祉 人口動態や世帯の在り方から福祉政策の変化を見る P100～107</p> <p>【到達目標】 ・高齢化率の変遷を説明できる ・合計特殊出生率の変遷を説明できる。 ・世帯の在り方の変化を説明できる</p>
2	<p>【授業単元】 福祉国家の萌芽 貧困調査～ワيمール共和国の誕生 P16～33</p> <p>【到達目標】 ・貧困調査の意義とその報告内容を簡単に説明できる。 ・ナショナルミニマムについて簡潔に説明できる。 ・第一次大戦の結果と社会主義国家誕生を関連付けて説明できる。 ・ワيمール共和国誕生の意義を解説できる</p>	10	<p>【授業単元】 社会保障予算の抑制委へ 「新しい日本型福祉社会の実現」(1979)～福祉八法改正 (1990) P194～197</p> <p>【到達目標】 ・1979年の「新しい日本型福祉社会」とは、何かを説明できる。 ・1985年の基礎年金制度への改正とその目的を説明できる。 ・1989年「今後の社会福祉のあり方について」のポイント3つを指摘できる。 ・福祉八法改正の要点を3つあげられる。</p>
3	<p>【授業単元】 福祉国家の発展 ルーズベルトの社会保障法～ジョンソンの「貧困戦争」 P16～33</p> <p>【到達目標】 ・ルーズベルト大統領のニューディール政策と社会保障法を解説できる。 ・ペヴァリッジ報告の目指した生活保障を解説できる。 ・ジョンソン大統領の「貧困との戦い」の内容を説明できる。 ・福祉国家の意味を端的に説明できる。</p>	11	<p>【授業単元】 社会福祉基礎構造改革 1994「21世紀福祉ビジョン」～2000「社会福祉法」 P194～197</p> <p>【到達目標】 ・「21世紀福祉ビジョン」が目指した重要ポイント一つをあげる。 ・1998「社会福祉基礎構造改革」の「措置から契約へ」「多様な主体の参入」の意味と意義を説明できる。 ・2000年「社会福祉法」の最重要ポイントを一点あげられる</p>
4	<p>【授業単元】 福祉国家の変容 福祉多元論～ワークフェアの拡がり P16～33</p> <p>【到達目標】 ・レークニクスやサッチャイズムを解説できる。 ・新自由主義が福祉政策に及ぼした影響を解説できる。 ・「第三の道」や「ポジティブウェルフェア」を解説できる。</p>	12	<p>【授業単元】 新自由主義の改革 小泉政権下の構造改革～民主党政権の政策 2005～介護保険制度の改正 2008：後期高齢者医療制度 P194～197</p> <p>【到達目標】 ・小泉政権が行った自立支援にはどのようなものがあったかを説明できる。 ・セーフティネットの底が抜けた日本の課題を解説できる。 ・民主党政権下の「税と社会保障の一体改革」の意味を解説できる</p>
5	<p>【授業単元】 日本の福祉の源流 江戸時代～明治の社会事業政策 中央慈善協会設立(1908) P34～38</p> <p>【到達目標】 ・江戸時代の都市と農村での互助制度を簡単に述べることができる。 ・明治時代の篤志家による社会事業活動に関して、7人の活動内容を説明できる。 ・感化法の歴史的意味を議論できる ・明治期の慈善事業は篤志家によって支えられていたことを理解する。</p>	13	<p>【授業単元】 安倍政権下の社会福祉政策 P197～210</p> <p>【到達目標】 ・貧困対策としての生活困窮者自立支援法の中身を言える ・労働力不足対策としての女性活躍推進法の意味を解説できる ・アベノミクス・新・三本の矢の意味するところを説明できる</p>
6	<p>【授業単元】 戦争と厚生事業 済世顧問制度(1917)～健康保険(1942) P38～41</p> <p>【到達目標】 ・方面委員制度・济世顧問制度を説明できる。 ・健康保険制度を成立させた時代背景を具体的に述べることができる。 ・戦時厚生事業の目的を把握し、説明できる。 ・厚生年金の成立の仕事を述べられる。</p>	14	<p>【授業単元】 社会的包摂と地域共生社会の構築へ P197～210</p> <p>【到達目標】 ・地域包括ケアシステムを構築しようと考えたきっかけが何かを説明できる ・介護保険法と地域包括システムの関係を解説できる ・「一歩子育て支援」、「地域共生社会の構築」、「母が車、カーレントは共生社会」、「我が事・丸ごと」地域共生社会をイメージできる</p>
7	<p>【授業単元】 福祉国家への始動 マッカーサー三原則(1945)～国民皆保険の達成(1961) P40～42</p> <p>【到達目標】 ・福祉三法を制定した必要性を説明できる。 ・新生生活保護法の改正点を挙げることができる。 ・医療保険と年金保険制度に関して、簡単な説明ができる</p>	15	<p>【授業単元】 ・社会福祉の歴史の総復習 ・後期試験</p> <p>【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率</p>
8	<p>【授業単元】 福祉の充実期 1960～1975 所得倍増計画(1960)～福祉元年(1973) P42～44</p> <p>【到達目標】 ・福祉六法をすべてあげることができる。 ・社会保障制度審議会『962年勧告』の重要な部分を解説できる。 ・田中角栄首相の「福祉元年」の内容を説明できる ・福祉見直しが言われ始めた背景を解説できる</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 小テスト 毎回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2 とし、定期試験と合計してAからFの6段階で評価を行う。</p>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】 配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。</p>		

授業概要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	内藤 博幸		
学科コース	社会福祉科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割）について理解する。福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策等）の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。

【掌握内容】

福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】			【授業時間外における学習】		
「最新 社会福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策」中央法規			授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。		
回	授業計画		回	授業計画	
1	【授業単元】 社会福祉の思想・哲学 P48～58	【到達目標】 ・福祉政策の下となった理念の変遷を説明できる ・自由主義・社会主義・保守主義などのイデオロギーを理解し簡単な説明ができる ・社会権・ノーマラーゼーション・福祉多元主義など重要な用語の解説ができる ・ウェルフェアからワークフェアへの意味を解説できる	9	【授業単元】 男女共同参画社会と母子家庭の現状 P200	【到達目標】 ・女性解放運動(フェミニズム運動)の簡単な歴史を解説できる ・男女共同参画社会の目的は何かを解説できる ・男女平等に関する国際指標をあげ、日本の位置を説明できる ・安倍内閣の女性政策を説明できる
	【授業単元】 福祉政策におけるニーズと資源(リソース) P134～163	【到達目標】 ・非貨幣ニードという発想が生まれた背景を解説できる ・ブランドショーニード分類を理解し、解説することができる。 ・ニーズ(必要)とデマンド(需要)を解説できる ・必要原則と貢献原則 知識と用具の用語解説ができる		【授業単元】 福祉国家の類型 P67～88 P282～288	【到達目標】 ・先進各国の社会保障費の現状を解説できる ・ティマスの福祉国家の分類を説明できる ・Eアンデルセンの福祉国家レジームを解説できる ・ワレンスキーの福祉国家収斂説を説明できる
2	【授業単元】 【到達目標】 ・非貨幣ニードという発想が生まれた背景を解説できる ・ブランドショーニード分類を理解し、解説することができる。 ・ニーズ(必要)とデマンド(需要)を解説できる ・必要原則と貢献原則 知識と用具の用語解説ができる	P169～177	分配の正義 P148～150	10	【授業単元】 アメリカの社会保障制度 P289～295
	【授業単元】 【到達目標】 ・ロールズの格差原理を解説できる ・パレート効率性を理解する ・ウルフエンデン報告の福祉ミックス論を解説できる ・平行棒理論」と「繰り出し梯子理論」を解説できる ・PFIや指定管理者制度などNPMについて説明できる ・ベストの「福祉トライアングル」を説明できる	P254～271	【到達目標】 ・アメリカの医療制度を解説できる ・アメリカの年金制度を解説できる		【授業単元】 イギリスの社会保障制度 P289～295
4	【授業単元】 【到達目標】 ・ウルフエンデン報告の福祉ミックス論を解説できる ・平行棒理論」と「繰り出し梯子理論」を解説できる ・PFIや指定管理者制度などNPMについて説明できる ・ベストの「福祉トライアングル」を説明できる	P202	P224～227 P228～232	11	【授業単元】 イギリスの医療制度を解説できる ・イギリスの年金制度を解説できる ・イギリスの社会保障政策の流れを解説できる
	【授業単元】 【到達目標】 ・後期高齢者医療制度を説明できる ・地 域完結型医療への転換を説明できる	P233～238	【授業単元】 フランス・ドイツ・スウェーデンの社会保障体制 P289～295		【授業単元】 スウェーデンのエーテル改革を解説できる ・ドイツのハルツ改革を解説できる ・フランスの一般社会拠出金制度
6	【授業単元】 【到達目標】 ・老人保健施設、経費老人ホーム、サ高住、特養の違いを説明できる ・住宅セーフティネット法の特徴をひとつ述べることができる。 ・住宅政策の課題をあげられる	P245	【授業単元】 今日の我が国の福祉制度の課題 【到達目標】 ・岸田首相の異次元の少子化対策の内容を解説できる ・岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」とは何かを説明できる ・菅義偉内閣の子ども家庭庁の新設について解説できる ・財政の問題を説く。これがあります。	13	【授業単元】 フランス・ドイツ・スウェーデンの社会保障体制 P289～295
	【授業単元】 【到達目標】 ・民生委員と避難行動要支援者登録制度について説明できる ・生活支援相談員の職務を解説できる ・社協のボランティアコーディネータを説明できる ・被災者生活再建支援法を解説できる	P245	【授業単元】 ・社会福祉政策と理念の総復習 ・後期試験		【授業単元】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率
8	【授業単元】 【到達目標】 ・福祉国家の福祉政策の重要性を説明できる ・フレキシキュリティ、ワークフェア、アクティベーションの違いを明確に説明できる ・求職者支援制度を説明できる ・最低賃金制	P239～244	【成績評価の方法と基準】 小テスト 毎回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2とし、定期試験と合計してAからFの6段階で評価を行う。	15	【成績評価の方法と基準】 小テスト 每回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2とし、定期試験と合計してAからFの6段階で評価を行う。
	【履修に当たっての心構え・留意点】 配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。				

授業概要

授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	吉成孝夫		
学科コース	社会福祉科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①地域福祉の基本的考え方、展開、動向について理解する。 ②地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。 ③地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的および展開について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 現代社会と福祉、老人福祉論、社会理論と社会システム、福祉行政と福祉計画等についての教員経験、ホームレス支援とうの社会福祉領域での経験を活かし、理論的枠組みを強固にしたうえで、住民主体の原則及び地方自治の本旨にのっとり、現実に生起する地域の課題を教材として学習を進める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括					シラバスに基づいて予習が望ましいが、小テスト等を中心に復習は絶対に必要。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション「地域福祉と包括支援体制」で何をどう学ぶか 【到達目標】 ①地域福祉と包括支援体制という科目の学習の内容と学習の意義を理解する。 ②日本国憲法の根本原理からの位置づけを理解する。(憲法25条と地域福祉) ③地方自治及びひいて住民主体原則からの位置づけの意義を理解する。	9	【授業単元】 都道府県と市町村の役割 【到達目標】 ①地方公共団体とは何か理解する。 ②福祉行政における都道府県の役割を理解する。 ③福祉行政における市町村の役割を理解する。						
2	【授業単元】 地域福祉の概念と理論 【到達目標】 ①地域福祉の概念と理論の意義を理解する。 ②地域福祉が注目されるようになった経済的・社会的・政治的背景を理解する ③日本の主な地域福祉論の概要を理解する。	10	【授業単元】 福祉行政の組織及び専門職の役割 【到達目標】 ①社会福祉の実施体制を理解する。 ②社会福祉における専門機関の役割を理解する。 ③社会福祉の専門職の役割を理解する。						
3	【授業単元】 地域福祉の歴史(欧米) 【到達目標】 ①イギリス新教貧賤法の下での貧困者救済の実態を理解する。 ②イギリスにおける地域福祉の源流=セツルメント、COSの活動などについて理解する。 ③第二次世界大戦後におけるイギリスのコミュニティケアの変遷を理解する。	11	【授業単元】 福祉の財源 【到達目標】 ①国の財源構成を理解する。 ②地方の財源について理解する ③民間の主な財源について理解する。						
4	【授業単元】 地域福祉の歴史(日本) 【到達目標】 ①戦前の慈善事業家の活動について理解する。 ②戦前における方面委員制度や大学セツルメント等について理解する ③戦後の地域福祉政策の基本的流れを理解する。	12	【授業単元】 福祉計画の定義・目的・機能・歴史的展開 【到達目標】 ①福祉計画の定義・目的・機能について理解する。 ②日本における福祉計画の歴史的展開を理解する。 ③福祉計画の種類と類型について理解する。						
5	【授業単元】 地域福祉の推進主体① 【到達目標】 ①自治体の意義と役割を理解する ②社会福祉協議会の役割と意義を理解する。 ③民生委員・児童委員の役割と意義を理解する	13	【授業単元】 市町村地域福祉計画と都道府県地域福祉支援計画 【到達目標】 ①社会福祉法における地域福祉計画の位置づけを理解する。 ②市町村地域福祉計画の内容を理解する。 ③都道府県地域福祉支援計画の内容を理解する						
6	【授業単元】 地域福祉の推進主体② 【到達目標】 ①保護司の役割を理解する ②町内会の法的位置づけと現状を理解する。 ③NPO、社会的企業の意義と役割を理解する	14	【授業単元】 福祉計画 【到達目標】 ①ニーズ把握の方法・技術を理解する。 ②福祉計画の策定過程と方法を理解する。 ③福祉計画における評価の方法・技術・留意点を理解する。						
7	【授業単元】 住民の主体形成と福祉教育 【到達目標】 ①地域における住民の主体形成の意義を理解する。 ②住民の主体形成の方法・道筋について理解する。 ③地域福祉の推進と福祉教育の意義について理解する。	15	【授業単元】 定期試験(振り返り) 【到達目標】 ①定期試験を通じてこれまでの重要なポイントを再確認する。 ②定期試験の結果を受け学習の到達点を知り、今後の学習につなげる。						
	【授業単元】 国の役割・国と地方の関係 【到達目標】 ①国の福祉行政体制とその役割について理解する。 ②地方分権一括法について理解する。 ③法定受託事務と自治事務について理解する。		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
基本概念を確実に理解すること。時系列でかつ社会全体の中で位置づけること。現実の動向に关心を寄せる。									

授業概要

授業概要

授業概要

授業概要

授業概要

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門) I	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	田邊慎悟・田原雄二		
学科コース	社会福祉科	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

ソーシャルワーカーとしての基礎となる技術・知識を実践を通して得体する。座学で学んでいる内容を知識だけに留めず実践する中で、実践力を養い現場で生かすことのできる即戦力を身につける。同じ専門職を目指す仲間通しの価値観に触れる、深める中で、視野の広さ・選択肢の豊富さに繋がり総合的に対応できる能力を習得する。(上記、前期・後期を通して)

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

現場でソーシャルワークの実務経験のある教員が、利用者本人を中心に据えたソーシャルワークの実践力を得体させるために、グループワークや事例検討を中心とした演習を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

テキストはなし。参考図書については授業にて適宜提示する。

【授業時間外における学習】

地域共生型社会の中で、変わりゆく社会、多様化していく社会の情報を当たり前として捉えず、情報に敏感になり考える習慣を身に付けてほしい。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション</p> <p>【到達目標】 演習の狙いと進め方を共有し、年間を通しての目標を明確にする 現場実習を見据え、ソーシャルワーカーとしての支援の視点を理解する</p>	9	<p>【授業単元】 インテーク③</p> <p>【到達目標】 前回の振り返りを生かし実践し、技術を習得する</p>
2	<p>【授業単元】 意思決定支援①</p> <p>【到達目標】 代弁者として携わる専門職として、様々な価値観に触れ自身の考えが当たり前でないことを理解する意思決定支援の重要性を学ぶ</p>	10	<p>【授業単元】 インテーク④</p> <p>【到達目標】 インテークの事例をクライエント側の立場で考え、ソーシャルワーカーと双方の立場を理解する</p>
3	<p>【授業単元】 意思決定支援②</p> <p>【到達目標】 実際の事例を通じ意思決定支援の難しさ、葛藤を理解しながらも支援を考える現時点での力量を把握する</p>	11	<p>【授業単元】 インテーク⑤</p> <p>【到達目標】 前回の作成した事例をグループを交えてインテーク面接を実施。場面が変わっても対応できる実践力を習得する</p>
4	<p>【授業単元】 ニュースを題材にした状況の想像①</p> <p>【到達目標】 ストーリーを考えることで、想像力の差異や傾向の違いがあることを認識し自分の価値観を知る、人の生活を想像するためには多くの知識が必要であることを理解する</p>	12	<p>【授業単元】 アセスメント①</p> <p>【到達目標】 アセスメントに求められるポイント、要素を復習・理解する</p>
5	<p>【授業単元】 ニュースを題材にした状況の想像②</p> <p>【到達目標】 前回の内容を発表し意見交換する中で、想定した登場人物の関心や心理面の考察からお互いの観点や違いを認識する</p>	13	<p>【授業単元】 アセスメント②</p> <p>【到達目標】 インテーク時に使用した事例をもとにアセスメントを行い課題解決に必要な情報を収集できる</p>
6	<p>【授業単元】 肯定的な反応</p> <p>【到達目標】 否定的な内容について、傾聴しつつ肯定的な反応を返せるよう実践する 傾聴、受容だけでは解決しないことを認識しリフレーミングが活用できる</p>	14	<p>【授業単元】 アセスメント③</p> <p>【到達目標】 前回のアセスメント時の不足がないか検討しプランニングに必要な情報を内付けするアセスメントの重要なポイントを理解する</p>
7	<p>【授業単元】 インテーク①</p> <p>【到達目標】 相談援助の中でも、重要度が高く、日々繰り返されるインテークについて 重点的に学ぶ。</p>	15	<p>【授業単元】 定期テスト</p> <p>【到達目標】 小論文を実施する</p>
8	<p>【授業単元】 インテーク② 中間テスト</p> <p>【到達目標】 事例をもとに実際にインテーク面接を実施する</p>	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験は筆記試験で行う。</p> <p>毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> レポートのテーマ内容や提出状況により評価する 授業への参加姿勢、グループワーク、発表等の授業参画度により評価する 	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>固定概念を持たず、柔軟な考え方と他者の意見を否定せずに受け止めることで成長に活かしてください。共に考えるという姿勢を大切にする。演習一つを大切な実践の場と捉えて取り組んでください。</p>			

授業概要

授業概要

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	野口 和道			
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・相談援助実習の意義について理解する。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術を体得する。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的の援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。

【使用教科書・教材・参考図書】	【授業時間外における学習】
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書	実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。

授業計画

実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する

- ・相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義
- ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解
- ・実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
- ・現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。）
- ・実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
- ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。）
- ・「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
- ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
- ・巡回指導
- ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
- ・実習の評価全体総括会

【履修に当たっての心構え・留意点】	【成績評価の方法と基準】
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。	提出物及び記述試験をふまえ、A～Eの6段階で評価する。

授業概要

科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	野口 和道			
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	60 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・相談援助実習を通じて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書	実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。
------------------------	----------------------------------------------------------

授業計画

以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。

- ・利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価
- ・多種職連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- ・社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- ・当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

【履修に当たっての心構え・留意点】

【成績評価の方法と基準】

ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。	実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。
-----------------------------------------------------------	-----------------------------------------------

授業概要

授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	安藤 宏美		
学科コース	社会福祉科	学年	2	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスを説明できる。 2 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明できる。 3 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明できる。 4 精神保健福祉士と所属機関の関係をふまえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について説明できる。 5 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性をふまえて説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として精神科医療機関でソーシャルワークを行ってきた教員が、精神保健福祉士の専門性である「価値・知識・技術」を中心に据え、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスや家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法及び精神保健福祉士の役割、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について、講義とそれに関連した具体的な事例検討等を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』					・復習: 授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。 ・予習: 次回の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。				
中央法規出版									
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援1 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援(ソーシャル・グループワーク)の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実際	9	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ1 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチの概要を説明できる。						
2	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援2 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援(ソーシャル・グループワーク)の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実際	10	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ2 ピアサポート 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるピアサポートの意義を説明できる。						
3	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリーチ 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリーチの意義、方法、形態、留意点を説明できる。	11	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ3 ピアサポート 【到達目標】 AA (Alcoholics Anonymous) のメンバーをゲストに迎え、精神保健福祉士とピアとの協働のあり方について自分の意見を述べることができる。						
4	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント1 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。	12	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクション 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクションの視点、歴史、展開過程、政策提言のあり方の概要を説明できる。						
5	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント2 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。	13	【授業単元】 精神保健福祉領域のソーシャルアドミニストレーション 【到達目標】 ソーシャルアドミニストレーションの概念、意義、展開方法の概要を説明できる。						
6	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援1 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族が置かれてきた状況を説明できる。	14	【授業単元】 まとめ 【到達目標】 後期の授業内容を振り返り、定期試験に備えることができる。						
7	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援2 【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援の意義と方法を説明できる。	15	【授業単元】 定期試験、後期の要点を復習 【到達目標】 後期の全授業の要点を理解することができる。						
8	【授業単元】 (1)中テスト (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワーク 【到達目標】 (1)学習した内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度を確認できる。 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワークの概要を説明できる。		【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・疑問点や不明点はまず自分で調べたり考えてから質問するのが望ましい。 ・授業内容を受け取るだけでなく「それについて自分はどう思うのか」を考えること。 ・他者とのワーク時は「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習」とからえて取り組むこと。									

授業概要

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習(精神専門) I	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	未定		
学科コース	社会福祉科	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーカーとしての役割、倫理観について理解するとともに、実際に現場に出た際の実践力を養う。最終的には支援者としてのセンスに磨きをかけて高めてもらいたい									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)					精神保健福祉士の実践活動に必要な基礎知識、基礎技術を座学と演習を通して学ぶ。				
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ソーシャルワーク演習(中央法規)					授業後、次回までに復習してほしい用語等を提示する。教科書、レジュメを用いて授業の予習復習を行う。次回の授業時に確認する。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション 自己紹介 【到達目標】 演習の意義、目的、進め方を学ぶ 自分自身のキャリア形成について考察する	9	【授業単元】 地域移行支援から退院へ、退院準備期 地域生活定着支援の利用、フォロー期、地域生活定着期						
2	【授業単元】 演習教育における自己覚知	10	【到達目標】 退院準備期のプロセスを整理する 演習課題を通してクライシスプランを立ててみる 精神科病院を退院したクライアントが利用できる支援について考察する 地域生活を再開する際のエコマップを作成する						
3	【授業単元】 精神保健福祉士に求められる役割 演習のねらい、展開方法 【到達目標】 厚生労働省が示す精神保健福祉士に求められる役割を理解する。 演習のねらいを理解し、事例の読み方使い方を学ぶ	11	【授業単元】 ピアソーター養成講座 準備期～開始期 【到達目標】 精神保健福祉士として自らが「ピアソーター養成講座」を企画する際にどのようなプログラムを行かと考えてみる。 グループワークの原則とは何かを説明できるようになる						
4	【授業単元】 精神保健福祉士の実践における原理原則 精神保健福祉を取りまく社会問題 【到達目標】 精神保健福祉社はなぜクライアントの自己決定を尊重し支援するのか、過去の精神障害を取りまく歴史から考察し、グループで意見交換を行い理解を深める	12	【授業単元】 ピアソーター養成講座 作業機～終結期 グループワークの過程、精神保健福祉士の役割 【到達目標】 精神障害者に対する報道の在り方について考える。 作業期における精神保健福祉士の役割、知識を学ぶ。事例を通して作業期における観察記録を作成する。 終結期における観察記録を作成する。						
5	【授業単元】 個人に対する相談援助 【到達目標】 演習課題を通して、フェイスシート、ジェノグラムを作成。必要な支援について考察する。市長同意や生活保護の説明をロールプレイにて行い、制度の知識定着を図る。	13	【授業単元】 コミュニケーション 地域のニーズ把握、コミュニティアセスメント 【到達目標】 SWOT分析表を復習する グループにて地域のニーズを抽出しSWOT分析表を作成、発表する						
6	【授業単元】 入院から地域移行支援について 【到達目標】 医療保護入院における退院後生活環境相談員の役割を学び、ロールプレイを通して制度の説明ができるようになる。 精神科医療におけるチーム医療、多職種連携を学ぶ。チームアプローチについての意義を考える。	14	【授業単元】 ネットワーキング ソーシャルアクション 【到達目標】 ネットワーキングの定義、意義を学び説明することができるようになる。 事例を通してソーシャルアクションの企画書を作成、発表する						
7	【授業単元】 地域移行支援・支援準備期～支援中期 【到達目標】 サービス等支援計画(案)を作成する際に必要なアセスメント項目を考え、ロールプレイを行う 事例を通して支援中期の支援プロセスを学びピアソーターとは何かの役割を学び説明することができるようになる。	15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度の振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる						
8	【授業単元】 中テスト 解説及び学習内容の振り返り 【到達目標】 ・前期第1回～第7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する	【成績評価の方法と基準】					科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。		
【履修に当たっての心構え・留意点】					グループワーク、ロールプレイでは積極的な姿勢を期待する。授業で発生した不明な点は教員に質問してほしい。				

授業概要

授業概要

科目名	卒業研究Ⅰ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	原田、田邊、野口、安部、伊藤、外館						
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間				
【授業を通じての到達目標】													
政治、経済、歴史、宗教、科学といった様々な視点から社会福祉を考察することにより、実践的かつ創造的なソーシャルワーク実践を行うための力を身につける。													
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)													
教員と学生または学生同士の学びに焦点をあてた授業を展開する。ゲストスピーカー、関係機関への訪問、ディスカッション、プレゼンテーションを実施して学びを深め、幅広い知識や視点を身につける。													
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】								
資料、レジュメを配布					新聞、ニュース、書籍等から自発的に情報を収集し研鑽を積む								
コマ	授業計画				コマ	授業計画							
1	【授業単元】				33	【授業単元】							
2	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション				34	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
3	35				35	36							
4	36				37	【授業単元】							
5	【授業単元】				38	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
6	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション				39	39							
7	40				40	【授業単元】							
8	41				41	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
9	42				42	42							
10	43				43	【授業単元】							
11	44				44	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
12	45				45	【授業単元】							
13	46				46	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
14	47				47	47							
15	48				48	【授業単元】							
16	49				49	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
17	50				50	50							
18	51				51	【授業単元】							
19	52				52	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
20	53				53	【授業単元】							
21	54				54	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
22	55				55	55							
23	56				56	【授業単元】							
24	57				57	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
25	58				58	58							
26	59				59	【授業単元】							
27	60				60	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション							
28	【成績評価の方法と基準】				【成績評価の方法と基準】								
29	ゼミナール報告会を実施 プレゼンテーションを通して以下の観点から評価をする。 ・ゼミ活動での学びや体験を言語化することができている ・オーディエンスを意識したプレゼンテーションになっている ・社会課題に対してソーシャルワークの視点が含まれている				ゼミナール報告会を実施 プレゼンテーションを通して以下の観点から評価をする。 ・ゼミ活動での学びや体験を言語化することができている ・オーディエンスを意識したプレゼンテーションになっている ・社会課題に対してソーシャルワークの視点が含まれている								
30	【履修に当たっての心構え・留意点】				【履修に当たっての心構え・留意点】								
31	学生の皆さんが主体となり学びを創り上げていきます。テーマや关心のある事柄を提案してください。				学生の皆さんが主体となり学びを創り上げていきます。テーマや关心のある事柄を提案してください。								
32	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション				【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ・基礎知識 ・外部見学 ・ディスカッション								

授業概要

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	田邊 慎悟			
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
ソーシャルワーク実習に向けて、専門職としての知識・技術・姿勢・価値など最低限の力を身につける。同時に、既存の枠組みにとらわれることなく、社会課題に対して独創性かつEBPに基づく行動がとれるようになります。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)					【授業時間外における学習】					
医療・児童にてソーシャルワーク実践を行ってきたものが、ソーシャルワークの定義を踏まえた上で、実戦に必要な知識・技能を事例・ロールプレイ・講義を通して授業を展開していく。特に知識については、インプットからアウトプットすることにより伝える力を身につけていく。					ペア・グループを活用して実技試験に向けて準備を行っておくこと。同時に、指導を受けたい場合は事前に教員へアポイントをとって備えること。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1	【授業単元】 オリエンテーション ソーシャルワーク実践を行うために 【到達目標】 7月に実施されるOSCE及びSBTに関しての説明実施 ソーシャルワーク実践における事前評価の重要性を理解する。	9	【授業単元】 OSCE(加藤優) 【到達目標】 面談の実施を通して、青木功さんの支援計画を考察する。							
2	【授業単元】 介護保険制度 【到達目標】 介護保険制度について仕組み及び利用方法を説明することができる。	10	【授業単元】 2021OSCE事例 【到達目標】 面談のロールプレイ							
3	【授業単元】 医療保険制度 【到達目標】 高額療養費制度及び標準負担額・限度額適用認定証の説明を実施することができる	11	【授業単元】 2021OSCE事例 【到達目標】 時間計測した上で面談を実施し、帰着点をみつけ終結を図る。 同時に面談内容の報告及び自身の経験を言語化する。							
4	【授業単元】 障害者手帳制度 【到達目標】 身体・知的・精神障害者手帳を申請する際に申請方法及び申請窓口等について説明することができる	12	【授業単元】 2022OSCE 【到達目標】 文面の情報から情報を整理し、アセスメントの見立てを立てる。 同時に面談の構成を考えていく。							
5	【授業単元】 生活保護制度 【到達目標】 生活保護の申請及び受けられる扶助に関して説明することができる	13	【授業単元】 2023OSCE 【到達目標】 面談に対してのロールプレイの実施							
6	【授業単元】 2021OSCE事例からの考察(加藤優) 【到達目標】 インテーク面接の意義を踏まえた上で、事例検討の意義を理解する。 同時に会話スクリプトを構築していき、半構造化面接を構築する。	14	【授業単元】 2023OSCE 【到達目標】 面談のロールプレイ(導入～終結まで)							
7	【授業単元】 OSCE(加藤優) 【到達目標】 会話スクリプトを用いてロールプレイの実施。実施内容から面談のブラッシュアップを行う。	15	【授業単元】 7月14日 【到達目標】 OSCE試験の実施 ※7月19日 SBT及びOSCEについて結果発表 フィードバック面談については後日設定							
8	【授業単元】 2021OSCE事例 【到達目標】 2021OSCEから半構造化面接の構築を行っていく。		【成績評価の方法と基準】							
【履修に当たっての心構え・留意点】					7月16日にて試験を実施する。 【SBT】 オリエンテーション時に配布する資料を完成させ、OSCE当日に提出をする。 会得の6割以上の得点率及び各部において0点がないこととする。 【OSCE】 事前に提示されているループリック評価を用いて、以下3点からの評価を行い、全て合格することを必要とする。 ①実技項目 ②3分間の面談の実施、ループリック評価を基に試験官2名及びクライエント1名の3者からの評価 全ての項目に対して、試験官及びクライエントからの評価にて1(不適切)評価がないこと。 ③報告 試験官に面談報告(面談内容・アセスメント・支援計画など)を要約して行う ④実習日誌の作成 上記3点を踏まえて総合的に評価を行う。					

授業概要

授業概要

科目名	社会学と社会システム	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	内藤 博幸			
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
現実の社会が抱える問題を分析することによって、社会のシステム(制度・構造など)を理解する。詳細な到達目標は、社会変動と労働力の関係を説明できる。人口構造について我が国の特徴を理解する。都市化や過疎化など地域のあり方を概説できる。社会集団と組織を理解する。家族のあり方と機能について説明できる。生活様式とライフスタイルの変遷について考察する。人と社会との関係(役割、行為、ジレンマ)を理解する。さらに、具体的な社会問題(差別、貧困、社会的排除、ハラスメント、児童虐待、いじめなど)について解決策を提案することができるようになることである。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
10年以上の社会学そして社会保障制度に関する講義経験を持つ教員が、福祉的視野から社会というもののあり方、仕組(社会システム)自体を理解するための授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。そして、試験前には徹底的に覚えこみましょう。					
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
	【授業単元】 第1章 社会学の視点容 P2~6 第2章 第5節 社会変動(社会学の誕生) P77~79					【授業単元】 第5章 自己と他者				
	【到達目標】 ・社会学がなぜ必要なのかを理解する ・コントとマルクスの歴史観を解説できる ・社会学がなぜ學問として成立したのかを社会変動の視点で解説できる					【到達目標】 ・役割の意味を説明できる ・ミードの役割取得について解説できる ・ゴッフマンの印象操作を解説できる				
	【授業単元】 第4章 第1節 家族とジェンダー P154~169					【授業単元】 第2章 第2節 組織と集団 P49~59				
	【到達目標】 ・家族の定義を言える ・我が国の家族のあり方の変容を解説できる ・家族の機能をオグバーンの理論を用いて説明できる ・社会規範としての家族のあり方を理解できる					【到達目標】 ・ゲゼルシャフトとゲマインシャフトを説明出来る ・第一次集団と第二次集団を説明出来る ・コミュニティとアソシエーションの違いが見える ・準拠集団の特徴				
	【授業単元】 第2章 第6節 地域 P88~102					【授業単元】 第2章 第7節 環境 P104~110 第3章 第4節 災害と復興 P146~150				
	【到達目標】 ・地域社会の追跡問題を説明できる ・ワースのアーバニズム論を語ることができる ・クラーセンの都市の発展段階論を解説できる ・日本の都市社会学に関する学説を語ることができる					【到達目標】 ・ベックのリスク社会を解説できる ・地球環境問題を解説できる ・社会的ジレンマに関する理論を説明できる ・SDGsの問題等				
	【授業単元】 第3章 市民社会と公共性 第1節 社会的格差 P112~122					【授業単元】 第2章 第4節 グローバリゼーション P65~76				
	【到達目標】 ・我が国「格差」の現状を解説できる ・相対的貧困の定義ができる ・ブルデューの分化資本を解説できる ・ジニ係数等で格差の現状を解説できる					【到達目標】 ・グローバリゼーションの影響を考察できる ・ウォーラスの世界システム論を解説できる ・在日外国人労働者の現状を語ることができる ・グローバル化				
	【授業単元】 第3章 第2節 社会政策と社会問題 P123~145					【授業単元】 第2章 社会構造と変動 第1節 社会システム P28~38 第5節 社会変動 P77~87				
5	【到達目標】 ・マートンやベッカーの社会問題への考察視点を説明できる ・社会問題に対する社会政策の意味を説明できる ・労働運動と福祉国家成立の関連を解説できる					【到達目標】 ・コント・スペンサー・マルクスの社会変動を解説できる ・産業化を解説できる ・近代と前近代の説明ができる				
	【授業単元】 第3章 第3節 差別と偏見 P134~145 終章 社会関係資本と社会的連帯					【授業単元】 第1章 第2節 社会学の歴史 P13~27				
	【到達目標】 ・サムナーの内集団と外集団を解説できる ・リースマンの『孤独な群衆』の内容を説明できる ・アドルノの権威主義的パーソナリティを解説できる					【到達目標】 ・社会学の歴史を解説できる ・脱工業化社会(第二の近代)とは何か、説明できる ・第三の情報革命(ブロックチェーン)を解説できる				
	【授業単元】 第4章 生活と人生 P183~206					【授業単元】 全ての講義の総復習として振り返り授業定期試験 60点				
	【到達目標】 ・ペティ＝クラークの法則を説明できる ・かつての日本型雇用の特徴をあげられる ・女性労働の課題をあげられる					【到達目標】 定期試験での6割以上の正答率を目指す				
	【授業単元】 第2章 第3節 人口 P51~63 中テスト15点満点					【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ・リースマンの人口理論を説明できる ・我が国の少子化に關の原因と政府の対策を解説できる ・高齢化の現状とその問題点を指摘できる ・少子高齢化が社会経済に					科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【履修に当たっての心構え・留意点】									
	配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

授業概要

科目名	社会福祉調査の基礎	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	福田真清		
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉調査の意義と目的、方法の概要を理解する。 ・統計法の概要、社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ・量的調査と質的調査の方法、ITを活用した社会福祉調査の方法を理解する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害当事者やその家族を対象にした調査研究や福祉サービス事業所における管理者等で培った知識と経験を活用し、国家試験はもとより、実践現場でも応用可能な知識が習得できるよう、体系的なスマールステップで進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉調査の基礎』中央法規					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション、社会福祉調査の種類 【到達目標】 ・社会福祉調査の種類 が説明できる。	9	【授業単元】 質的調査方法論の主なアプローチ 【到達目標】 ・対象者の選定 ・質的調査の方法 が説明できる。						
2	【授業単元】 社会福祉調査の展開、統計法 【到達目標】 ・ソーシャルワーカーが社会福祉調査に取り組む意義 ・統計法の5つのポイント が説明できる。	10	【授業単元】 質的データの整理と分析 【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの分析方法の特徴 が説明できる。						
3	【授業単元】 社会福祉調査の倫理と個人情報保護 【到達目標】 ・社会福祉調査における倫理的配慮 ・OECD8原則と個人情報保護法のポイント が説明できる。	11	【授業単元】 プログラム評価、実践評価 【到達目標】 ・プログラム評価の種類 ・シングル・システム・デザインに基づく評価方法 が説明できる。						
4	【授業単元】 社会福祉調査のデザイン 【到達目標】 ・「演繹的」「帰納的」の違い ・量的調査の種類 が説明できる。	12	【授業単元】 振り返り①(社会福祉調査の基礎的知識) 【到達目標】 ・社会福祉調査に関する基礎的知識の定着を図る。						
5	【授業単元】 対象者の選定、測定 【到達目標】 ・対象者の選定 ・尺度4種類の特徴 が説明できる。	13	【授業単元】 振り返り②(量的調査) 【到達目標】 量的調査に関する基礎的知識の定着を図る。						
6	【授業単元】 データの収集方法 【到達目標】 ・質問紙の配布と回収の方法 ・質問紙を作成するときの留意点 が説明できる。	14	【授業単元】 振り返り③(質的調査) 【到達目標】 質的調査、ソーシャルワークにおける評価に関する基礎的知識の定着を図る。						
7	【授業単元】 量的データの整理と分析 【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの視覚化 ・基本的な検定方法の種類と特徴 が説明できる。	15	【授業単元】 社会福祉調査の展望、試験 【到達目標】 ・新しい調査手法 が説明できる。						
8	【授業単元】 質的調査の意義と目的 【到達目標】 ・質的調査の特徴と量的調査との違い が説明できる。		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次回の授業までに必ず消化しておくこと。				

授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	吉成孝夫		
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

【授業を通じての到達目標】

- ①地域福祉の基本的考え方、展開、動向について理解する。
- ②地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。
- ③地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的および展開について理解する。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

現代社会と福祉、老人福祉論、社会理論と社会システム、福祉行政と福祉計画等についての教員経験、ホームレス支援とうの社会福祉領域での経験を活かし、理論的枠組みを強固にしたうえで、住民主体の原則及び地方自治の本旨にのっとり、現実に生起する地域の課題を教材として学習を進める。

【使用教科書・教材・参考図書】

坂『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括

【授業時間外における学習】

シラバスに基づいて予習が望ましいが、小テスト等を中心に復習は絶対に必要。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】 オリエンテーション「地域福祉と包括支援体制」で何をどう学ぶか 【到達目標】 ①地域福祉と包括支援体制という科目の学習の内容と学習の意義を理解する。 ②日本国憲法の根本原理からの位置づけを理解する。(憲法25条と地域福祉) ③地方自治及び住民主体原則からの位置づけの意義を理解する。	9	【授業単元】 都道府県と市町村の役割 【到達目標】 ①地方公共団体とは何か理解する。 ②福祉行政における都道府県の役割を理解する。 ③福祉行政における市町村の役割を理解する。
2	【授業単元】 地域福祉の概念と理論 【到達目標】 ①地域福祉の概念と理論の意義を理解する。 ②地域福祉が注目されるようになった経済的・社会的・政治的背景を理解する ③日本の主な地域福祉論の概要を理解する。	10	【授業単元】 福祉行政の組織及び専門職の役割 【到達目標】 ①社会福祉の実施体制を理解する。 ②社会福祉における専門機関の役割を理解する。 ③社会福祉の専門職の役割を理解する。
3	【授業単元】 地域福祉の歴史(欧米) 【到達目標】 ①イギリス新教貧賤法の下での貧困者救済の実態を理解する。 ②イギリスにおける地域福祉の源流=セツルメント、COSの活動などについて理解する。 ③第二次世界大戦後におけるイギリスのコミュニティケアの変遷を理解する。	11	【授業単元】 福祉の財源 【到達目標】 ①国の財源構成を理解する。 ②地方の財源について理解する ③民間の主な財源について理解する。
4	【授業単元】 地域福祉の歴史(日本) 【到達目標】 ①戦前の慈善事業家の活動について理解する。 ②戦前における方面委員制度や大学セツルメント等について理解する ③戦後の地域福祉政策の基本的流れを理解する。	12	【授業単元】 福祉計画の定義・目的・機能・歴史的展開 【到達目標】 ①福祉計画の定義・目的・機能について理解する。 ②日本における福祉計画の歴史的展開を理解する。 ③福祉計画の種類と類型について理解する。
5	【授業単元】 地域福祉の推進主体① 【到達目標】 ①自治体の意義と役割を理解する ②社会福祉協議会の役割と意義を理解する。 ③民生委員・児童委員の役割と意義を理解する	13	【授業単元】 市町村地域福祉計画と都道府県地域福祉支援計画 【到達目標】 ①社会福祉法における地域福祉計画の位置づけを理解する。 ②市町村地域福祉計画の内容を理解する。 ③都道府県地域福祉支援計画の内容を理解する
6	【授業単元】 地域福祉の推進主体② 【到達目標】 ①保護司の役割を理解する ②町内会の法的位置づけと現状を理解する。 ③NPO・社会的企業の意義と役割を理解する	14	【授業単元】 福祉計画 【到達目標】 ①ニーズ把握の方法・技術を理解する。 ②福祉計画の策定過程と方法を理解する。 ③福祉計画における評価の方法・技術・留意点を理解する。
7	【授業単元】 住民の主体形成と福祉教育 【到達目標】 ①地域における住民の主体形成の意義を理解する。 ②住民の主体形成の方法・道筋について理解する。 ③地域福祉の推進と福祉教育の意義について理解する。	15	【授業単元】 定期試験(振り返り) 【到達目標】 ①定期試験を通じてこれまでの重要ポイントを再確認する。 ②定期試験の結果を受け学習の到達点を知り、今後の学習につなげる。
	【授業単元】 国の役割・国と地方の関係 【到達目標】 ①国の福祉行政体制とその役割について理解する。 ②地方分権・活性化について理解する。 ③法定受託事務と自治事務について理解する。		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。
	【履修に当たっての心構え・留意点】 基本概念を確実に理解すること。時系列でかつ社会全体の中で位置づけること。 。現実の動向に关心を寄せる。		

授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	吉成孝夫		
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念と意義を理解する。 ②包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 ③地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 現代社会と福祉、老人福祉論、社会理論と社会システム、福祉行財政と福祉計画等についての教員経験、ホームレス支援などの社会福祉領域での経験を活かし、理論的枠組みを強固にしたうえで、住民主体の原則及び地方自治の本旨にのっとり、現実に生起する地域の課題を教材として学習を進める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版、					シラバスに基づいて予習が望ましいが、小テスト等を中心に復習は絶対に必要。				
コマ 1	授業計画				コマ 9	授業計画			
	【授業単元】 地域社会の概念と理論 【到達目標】 ①地域社会の概念とは何かを理解する。 ②地域社会の理論について社会学の達成を理解する。					【授業単元】 地域を基盤としたソーシャルワークの展開 【到達目標】 ①地域を基盤としたソーシャルワークの概念を理解する ②地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景を理解する ③住民の主体形成の方法を具体的な事例で理解する			
コマ 2	【授業単元】 地域社会の変化 【到達目標】 ①世帯規模の縮小による家族機能の低下等を理解する。 ②過疎地域の現状と問題点を理解する。 ③見えない貧困問題と地域社会の関連を理解する。 ④外国人住民の増加と地域福祉の関連を理解する。				コマ 10	【授業単元】 多職種連携 【到達目標】 ①保健・医療・福祉にかかる多職種連携について理解する。 ②生活支援全般に関わるネットワークについて理解する。 ③多職種連携等における個人情報保護の重要性と方法を理解する。			
	【授業単元】 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ 【到達目標】 ①多様化・複雑化した地域生活課題について理解する。 ②多様化複雑化した地域生活課題の表出とニーズを理解する。 ③社会的孤立の問題と地域福祉の関連を理解する。					【授業単元】 福祉以外の分野との協力 【到達目標】 ①社会的企業について理解する。 ②農福連携について理解する。 ③観光・商工労働との連携を理解する ④地方創成について理解する			
コマ 4	【授業単元】 地域包括ケアシステム 【到達目標】 ①地域包括ケアシステムとは何かを理解する。 ②地域包括ケアシステムの端緒、政策とシステムの確立過程を理解する。 ③地域包括ケアシステムの展開を理解する。				コマ 12	【授業単元】 非常時や災害における法制度 【到達目標】 ①災害対策基本法を理解する。 ②災害救助法について理解する ③各自治体等の避難計画の現状について理解する			
	【授業単元】 生活困窮者自立支援の考え方 【到達目標】 ①生活困窮者自立支援制度の目的と理念を理解する。 ②制度の概要を理解する。 ③自立支援相談機関の役割と支援過程を理解する。					【授業単元】 非常時や災害における総合的・包括的な支援 【到達目標】 ①災害時要援護者支援について理解する ②福祉避難所運営について理解する。 ③災害ボランティア等について理解する。			
コマ 6	【授業単元】 地域共生社会と実現に向けた施策 【到達目標】 ①地域共生社会とは何かその概念内容を理解する。 ②その成立の経過を理解する。 ③地域共生社会の実現に向けた多機関協働による包括的支援体制を理解する。				コマ 14	【授業単元】 地域福祉ガバナンス 【到達目標】 ①ガバナンスの考え方を理解する。 ②多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性について再確認する。 ③住民の参加と協働について理解する			
	【授業単元】 地域福祉ガバナンス 【到達目標】 ①ガバナンスの考え方を理解する。 ②多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性を理解する ③社会における包括的・重層的支援体制づくりを理解する。 ④住民の参加と共同、住民自治の重要性を理解する					【授業単元】 定期試験(振り返り) 【到達目標】 定期試験を通じこれまでの学習の到達点を知り、知識を統合し重要事項について理解を深める			
コマ 8	多機関協働を促進する仕組み 【到達目標】 ①総合相談・各種相談機関の連携を理解する。 ②地域ケア会議、地域包括支援センター運営協議会の活動について理解する。 ③児童分野、障害者分野の協議会について理解する				コマ 15	【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
	【履修に当たっての心構え・留意点】 全ての科目について言えるが、基本概念を確実に理解すること。時系列でかつ社会全体の中で位置づけること。現実の動向に关心を寄せること。					【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			

授業概要

授業概要

科目名	社会保障	必修選択の別	必修選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤亮太		
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会保障・福祉問題を正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかなう。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院において、社会保障制度の研究を行い、その後年金・医療・介護・資金計画等で個人のライフプランニング設計等に携わっている。研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】									
最新・社会福祉士養成講座「社会保障」(中央法規)					【授業時間外における学習】				
					授業終了後の復習を怠らないこと。社会保障に関するニュースなど日ごろから改正項目等には注目しておくこと。				
回	授業計画	回	授業計画						
16	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要④ 【到達目標】 年金制度のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。	24	【授業単元】 第6章諸外国における社会保障制度 第1節諸外国の社会保障 【到達目標】 諸外国と日本を比較して、社会保障制度の違いを理解、説明できるようになる。各國の年金、医療、介護がどのような仕組みなのか説明できるようになる。						
17	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑤ 【到達目標】 国民年金制度と厚生年金制度のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。	25	【授業単元】 第6章続き 第2節社会保障の国際比較、第3節社会保障の国際化、過去問題演習 【到達目標】 社会保障の国際化について各国との連携を説明できるようになる。 過去問題をもとに、社会保障の仕組みを復習する。						
18	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑥ 【到達目標】 企業年金および個人年金のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。	26	【授業単元】 過去問題解説(一問一答形式) 【到達目標】 一問一答形式により、過去問題を解き、何が間違っているのか把握する。単純に問題を解くだけではなく、その後の実務に活かせるように、○×問題を解説していく。						
19	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑦ 【到達目標】 年金マスター問題をもとに、各自年金の計算や誰が受け取れるのかなど公的年金制度的一般的なQ&Aに応えられるようになる。	27	【授業単元】 過去問題解説(一問一答形式) 【到達目標】 一問一答形式により、過去問題を解き、何が間違っているのか把握する。単純に問題を解くだけではなく、その後の実務に活かせるように、○×問題を解説していく。						
20	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第4節労災保険制度と雇用保険制度の概要① 【到達目標】 労災保険の仕組みと実際の受給件数を確認し、労災状況を理解する。他の社会保障制度との違いを把握する。	28	【授業単元】 予想問題・過去問題による演習 【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。 試験で解けるようになるのはもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。						
21	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第4節労災保険制度と雇用保険制度の概要② 【到達目標】 雇用保険制度の概要を学び、実際に利用できる制度にどのようなものがあるのか理解する。労働保険制度を取り巻く経済社会環境の変化について理解する。	29	【授業単元】 予想問題・過去問題による演習 【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。 試験で解けるようになるのはもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。						
22	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第5節生活保護制度の概要、第6節社会手当制度の概要 【到達目標】 生活保護制度、社会手当制度の特徴および社会保障制度上の位置づけを理解する。	30	【授業単元】 期末試験および期末試験の解答解説 【到達目標】 期末試験で合格点に到達する。解答解説を聞き、間違っていたところをなおすほか、その後の模試や本番の試験に活かすことができるようになる。						
23	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第7節社会福利制度の概要 【到達目標】 社会福利制度の特徴および社会保障制度上の位置づけを理解する。		【成績評価の方法と基準】 期末試験問題をもとに成績評価を行う。 問題は国家試験と同レベルとし、総合評点が 60~69点…D 70~79点…C 80~89点…B 90~100点…Aとする。 59点以下はFとし、出席不良はEとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日頃から社会保障に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで改正点や最新情報を把握しておくこと。									

授業概要

科目名	福祉サービスの組織と経営	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	田邊 慎悟		
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
福祉サービスを提供する施設は多岐にわたっており、同時に変動しているものである。昨今、福祉ニーズも多様化し複雑となっている。その中で、専門職として福祉サービスを提供するということはどういったことなのか、同時に質の確保を保ち持続可能なサービスを提供するためには何が必要なのかを本講義を通して学び、幅広く福祉を捉えることが出来る社会福祉士になれる力を養う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
子どもの健全育成事業に関する研究及び社会福祉領域における実習前評価システムの開発研究を実施。 医療ソーシャルワーカーとして、新人から初任者研修担当講師や看護専門学校にて社会福祉科目的担当をした。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座/11 福祉サービスの組織と経営 プリント【補助教材】に関しては、講義時に適宜配布する					授業は板書にて、要点の記述のみを行うため、講義内で教員の話した内容はノート等に記述し、不明な用語等については次回の授業までに調べるようにすること。				
回	授業計画	回	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション 「サービス」、財(goods)の概念 【到達目標】 福祉サービスの組織と経営とはどういった科目になるのか、科目的概要を理解する 国家試験で出題された問題を検討することにより、社会福祉士としてこの科目から何を求められているのかを学ぶ	9	【授業単元】 モチベーション理論 【到達目標】 職員の動機づけにおけるモチベーション理論(過程・内容理論)を理解する						
2	【授業単元】 社会福祉法人についての歴史・目的・役割について理解する 【到達目標】 福祉サービスの歴史と概念を理解する 社会福祉法人のガバナンス及びコンプライアンスを理解する。	10	【授業単元】 人事考課とメンタルヘルスケア 【到達目標】 人材確保方針を踏まえ、人事制度を理解する。 職場におけるメンタルヘルスケアを理解する。						
3	【授業単元】 福祉サービスに関わる組織や団体 I (NPO法人・医療法人・営利法人) 【到達目標】 NPO法人の役割とガバナンスについて理解する。 各種医療法人の特性を理解するとともに、コンプライアンスを理解する。	11	【授業単元】 人事考課(評価制度) 会計財務の基礎 【到達目標】 人事考課におけるヒューマンエラーの特性を理解する 会計財務における基礎用語を理解する						
4	【授業単元】 経営における戦略と戦術 【到達目標】 組織における内部分析及び外部分析を理解する。 PDCAサイクルの特性と活用方法を理解する。	12	【授業単元】 財務諸表 【到達目標】 P/L, B/S, C/Fの財務諸表の関連性を理解する。 貸借対照表の見方の理解						
5	【授業単元】 リーダーシップ論(基礎) 組織論 【到達目標】 リーダーシップの歴史的変遷から、リーダーシップ論を体系的に捉え理解する。 組織形態を理解することにより、チャンドラー戦略とアンソフの違いを理解する。	13	【授業単元】 組織論(応用) 【到達目標】 サイモン、シャイン、アーリス、ヘドバーグなどの組織論の特性を理解する。						
6	【授業単元】 リーダーシップ論(応用) 組織論 【到達目標】 資質論からチャンドラー理論に至るまでの、各リーダーシップ論の特性を理解する。 バーナードによる公式組織と非公式組織の特性を理解する。	14	【授業単元】 福祉サービスの死と経営 【到達目標】 組織体制といったハード面をはじめ、リーダーシップや定款、人材確保などのソフト面を踏まえて、社会福祉領域におけるサービスマネジメントを理解する。						
7	【授業単元】 サービスマネジメント 【到達目標】 コトナーによるサービス特性を踏まえ、サービスの品質マネジメントを理解する。	15	【授業単元】 まとめ及び全体振り返り 定期試験 【到達目標】 専門職としてマネジメントを学ぶことが、どのように顧客(利用者・家族など)へサービスとしてつながるのかを理解することができる。						
8	【授業単元】 リスクマネジメント 中間試験 【到達目標】 ハインリッヒの法則及びリーズンの軌道モデルを事例を通して理解する。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点【(4点×25問)×0.6】、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験(五肢択一または五肢択2)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					この科目は、自分たちが働きやすくなるためには何が必要なのかを問う科目でもあります。最新の情報をキャッチするよう心掛けてください。				

授業概要

科目名	保健医療と福祉	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	須藤 淳		
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 2. 保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 3. 保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。 4. 保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)として、急性期病棟・地域包括ケア病棟で相談援助業務等に従事。ソーシャルワークに必要な医療保険制度や保健医療サービス等の知識を伝えつつ、他職種連携等の必要性などを実際に起こった事例を交え、講義を中心に個人ワーク・グループワークも行い授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新社会福祉士養成講座5 保健医療と福祉(社会福祉士養成講座編集委員会)中央法規出版 ・タブレット(Teams)、授業配布資料等					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や制度・社会問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これらの課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 1)オリエンテーション 2)保健医療の課題をもつ人の理解① 【到達目標】 1)授業で学ぶ内容、達成目標について理解する。 2)疾病、健康の定義、5大疾患について理解し、説明できる。 3)ICF、ICIDHについて理解し、説明できる。	9	【授業単元】 1)保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識① 【到達目標】 1)保健医療の政策・制度の全体像を理解し、説明できる。 2)保健医療サービスの提供体制の体系を理解し、説明できる。						
2	【授業単元】 1)保健医療の課題をもつ人の理解② 【到達目標】 1)病をもつことによって生じる諸問題について理解し、説明できる。 2)疾患や障害が家族に与える影響を理解し、説明できる。 3)家族支援の視点を理解し、説明できる。	10	【授業単元】 1)保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識② 【到達目標】 1)医療費保障制度の体系を理解し、説明できる。 2)保健医療領域と隣接領域の関係について理解し、説明できる。						
3	【授業単元】 1)保健医療の課題をもつ人の理解③ 【到達目標】 1)医療における患者の権利について理解し、説明できる。 2)インフォームドコンセント、インフォームドアセントについて理解し、説明できる。	11	【授業単元】 1)保健医療領域における専門職の役割と連携① 【到達目標】 1)医療における専門職の役割について理解し、説明できる。 2)医療を取り巻く社会環境を理解し、地域の関係機関との連携の必要性について理解し、説明できる。						
4	【授業単元】 1)医療倫理① 【到達目標】 1)医療倫理の4原則について理解し、説明できる。 2)生殖医療、移植医療、終末期医療の倫理的課題の概要を理解し、説明できる。	12	【授業単元】 1)保健医療領域における専門職の役割と連携② 【到達目標】 1)医療機関におけるMSWが所属する部門の位置づけについて理解し、説明できる。 2)医療機関における情報共有の仕組みを理解し、説明できる。 3)ジエングラム、エコマップを理解し、書くことができる。						
5	【授業単元】 1)医療倫理② 【到達目標】 1)意思決定支援の4モデルの特徴と違いを理解し、説明できる。 2)身寄りがない等の人への意思決定支援について、自分の意思を述べることができる。	13	【授業単元】 1)保健医療領域における支援の実際① 【到達目標】 1)MSWの役割、業務指針、業務の範囲について理解し、説明できる。 2)事例を通じて、MSWの連携に必要な知識について理解し、説明できる。						
6	【授業単元】 1)保健医療の動向① 【到達目標】 1)疾病構造とその経年的な動向について理解し、説明できる。 2)疾病構造の変化に伴う、保健と社会の役割について理解し、説明できる。	14	【授業単元】 1)保健医療領域における支援の実際② 【到達目標】 1)事例を通じて、今まで習得したMSWの連携に必要な知識・技術を駆使し、実際の相談援助について学ぶ。						
7	【授業単元】 1)保健医療の動向② 【到達目標】 1)在宅医療推進の特徴と課題について理解し、説明できる。 2)保健医療における福祉的課題の概要、重要性を理解し、説明できる。 3)疾患や状況において特徴的な福祉的課題を把握する。	15	【授業単元】 1)期末試験 【到達目標】 1)試験を通じ、これまでの授業内容について理解し、説明できる。						
8	【授業単元】 1)中間試験(第1~7回までの授業範囲を出題対象とする) 【到達目標】 1)試験を通じ、これまでの授業内容について理解し、説明できる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期試験60点、毎回授業の小テスト等40点の配分で総合し、AからFの6段階で評価する。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					常にアンテナを高く張り、社会の変化や政策、動向等、最新の情報を取り入れるよう努めてください。適宜グループワークを行います。主体的な取り組みを期待しています。				

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門) II	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	小倉明子・峯村里美							
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間					
【授業を通じての到達目標】														
ソーシャルワーカーとしての基盤となる技術、知識を実践を通して得体する。座学で学んでいる内容を知識だけに留めずにスキルとして定着させ、実践力を養い現場で活かすことのできる即戦力を身につける。同じ専門職を目指す仲間同士の価値観に触れ、深めることによって、視野の広さや選択肢を豊富に発想する力をも身に着け、現場の課題に総合的に対応する能力を、前期、後期を通して習得する。														
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)														
コミュニケーションソーシャルワーク、医療ソーシャルワーク、ケアマネジメント、スクールソーシャルワークなど様々な実践経験のある教員がソーシャルワークの価値観を基盤に据えながら事例検討やグループワークなどの手法を用いながら実践的にスキルを定着できる授業を行う														
【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】												
テキストはなし、参考図書、教材などについては随時提示する		社会の出来事をインターネット上の情報などに偏らず、新聞なども参考にしながらソーシャルワークとしての観点からも捉える習慣をつけることが望ましい												
授業計画				授業計画										
1	【授業単元】 オリエンテーション			9	【授業単元】 価値交流学習									
	演習の狙いと進め方を共有し、年間を通しての目標を明確にする。また、現場実習を見据えソーシャルワーカーとしての視点を養うとともに、それが現場でどのように活かされるのかというビジョンを持てるよう				【到達目標】 参加者間の価値観が多様であることを知る。また他者の価値観を尊重しつつ、自身の専門性を活かす方法について工夫できるようになる。									
2	【授業単元】 伝達トレーニング			10	【授業単元】 人権について学ぶ(いじめの課題を中心として)									
	【到達目標】 ・自分と他者の感覚、言葉の概念にはずれがあることを認識する。 ・メッセージを正確に他者に共有するための技法を習得する。				【到達目標】 いじめなどの様々な人権侵害の状況や法的な解釈、支援の実態について理解する。									
3	【授業単元】 ①SSW事例検討			11	【授業単元】 人権について学ぶ(いじめの課題を中心として)									
	【到達目標】 SSWの事例をもとに、事案が起こる要因や背景について考察する。				【到達目標】 人権が侵害されるとはどのような状態か、それは何故いけないのかについて他者に伝わるように言語化できるようになる。									
4	【授業単元】 ②SSW事例検討			12	【授業単元】 ・いじめ対策模擬授業の準備①									
	【到達目標】 グループワークを通し、支援方法やSSWとして果たしうる役割について理解する。				【到達目標】 取り組みのグループ分けをする中で多様な見方や価値観の共有、ソーシャルワーカーとしての基盤について確認できるようになる。									
5	【授業単元】 ③SSW事例検討			13	【授業単元】 ・いじめ対策模擬授業の準備②									
	【到達目標】 発表と振り返り、講評から、視点を変えて事例を再考する。				【到達目標】 対象者の年齢や状況に合わせて何をポイントとして「いじめはいけないのか」を伝えるのかをディスカッションし、発表を想定して資料などをを集められるようになる。									
6	【授業単元】 ケース会議(ネットワーキング・関係づくり)			14	【授業単元】 ・いじめ対策模擬授業の準備③									
	【到達目標】 個別ケースにおけるケース会議をする意味を確認し、どのような関係機関にどのような主旨で参加を依頼するのかを言語化できるようになる。				【到達目標】 いじめ対策模擬授業の発表に向けて自分自身の在り方も振り返りながら、専門家として伝えるべきことを講義形式で他者に伝える方法を取得する。									
7	【授業単元】 ケース会議の運営(ファシリテート・問題の所在を明らかにする)			15	【授業単元】 定期テスト(いじめ対策模擬授業 発表会)									
	【到達目標】 関係機関それぞれのアセスメントや取り組みを共有し、チームで総合的に状態像を捉えられるようになる。またそのプロセスをファシリテートできるようになる。				【到達目標】 いじめ対策模擬授業を実施することを通して、人権擁護、自己覚知、社会変革、エンパワメントなどの専門的観点を他者に平易かつ具体的に伝えられるようになる。									
8	【授業単元】 ケース会議の運営(今後の支援計画をたて、役割分担をする)			【成績評価の方法と基準】										
	【到達目標】 経過報告で終わらないケース会議とするために何ができるか、ということを念頭に会議を運営する視点を養う。その際、支援者の自己満足のための会議ではないことを理解できるようになる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。										
【履修に当たっての心構え・留意点】														
講義形式で学んだことと現場実習の間に位置する授業であることを踏まえ、積極的に参加することでスキルアップができるという認識で授業に臨むこと														

授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	小倉明子・峯村里美										
学科コース	社会福祉科	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間								
【授業を通じての到達目標】																	
ソーシャルワーカーとしての基盤となる技術、知識を実践を通して体得する。座学で学んでいる内容を知識だけに留めずスキルとして定着させ、実践力を養い現場で活かすことのできる即戦力を身につける。同じ専門職を目指す仲間同士の価値観に触れ、深めることによって、視野の広さや選択肢を豊富に発想する力をも身に着け、現場の課題に総合的に対応する能力を、前期、後期を通して習得する。																	
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)																	
コミュニケーションソーシャルワーク、医療ソーシャルワーク、ケアマネジメント、スクールソーシャルワークなど様々な実践経験のある教員がソーシャルワークの価値観を基盤に据えながら事例検討やグループワークなどの手法を用いながら実践的にスキルを定着できる授業を行う																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
テキストはなし、参考図書、教材などについては随時提示する					社会の出来事をインターネット上の情報などに偏らず、新聞なども参考にしながらソーシャルワークとしての観点からも捉える習慣をつけることが望ましい												
授業計画					授業計画												
1	【授業単元】 ディベート①				9	【授業単元】 意思決定支援③											
	ディベート題材について、これまで培ってきた視野・価値観を大事にしながら様々な角度から捉えられるよう情報収集し、整理し、発信できるよう準備する					【到達目標】 前回のゲストスピーカーの講義を受け、利用者・相談者が「その方らしく」生活するためにSWとしてどのような支援ができるかを考える											
2	【授業単元】 ディベート②				10	【授業単元】 自己覚知											
	【到達目標】 ディベートを通して他者の意見を尊重しながら自分の視点を発信できる					【到達目標】 自己への認識の扉を開ける。自身の思い込みや被害者意識などを確認し、課題や偏りを見出せるようになる											
3	【授業単元】 ディベート③				11	【授業単元】 社会課題と自己											
	【到達目標】 両者の意見をもとに、当事者やその周りに対してどのような働きかけができるか考える					【到達目標】 自分自身の課題は社会課題と地続きでもあるという認識を持つことで、他者のニーズや課題もまた、社会構造上の問題であるという側面を意識できるようになる											
4	【授業単元】 ジェンダーって何だろう				12	【授業単元】 エンパワメント…自分史書き換えプロジェクト①											
	【到達目標】 社会的的に作られた性差がいかに生活にしみ込み、それが時に人々の生きづらさにつながっているのかということを実生活に即して理解する。					【到達目標】 自分自身のこれまでの人生について複線径路等至性アプローチの手法を参考にしながら視覚的に振り返る。											
5	【授業単元】 フェミニストソーシャルワークって知っていますか				13	【授業単元】 エンパワメント…史書き換えプロジェクト②											
	【到達目標】 性別役割分業、DV、性の商品化、ケア役割など様々な事例をもとに、それらが社会構造上の課題であり、支援の対象でもあることを理解する					【到達目標】 何が自身の価値観の基盤やソーシャルワーカーをめざすきっかけとなっているのかを小論文を書きながら自覚し、それを社会の構造と関連付けて捉えられるようになる。											
6	【授業単元】 母親支援は子どもも支援				14	【授業単元】 エンパワメント…自分史書き換えプロジェクト③											
	【到達目標】 「課題のある母親」とみなされる女性について、ディベート等を通して様々な視点から全人的理解ができるようになる					【到達目標】 家族や知り合いなど他者からの見立てにも耳を傾け、エンパワメント志向の自身のオルタナティブストーリーを探し、その文章化ができるようになる											
7	【授業単元】 意思決定支援①				15	【授業単元】 定期テスト(自分史書き換え小論文 発表会)											
	【到達目標】 代弁者として関わる専門職として、事例を通して意思決定支援の重要性を考える					【到達目標】 エンパワメント志向の小論文を発表し、自身に内在する力に気づけるようになる											
8	【授業単元】 意思決定支援②				【成績評価の方法と基準】												
	【到達目標】 実際に支援を行っている任意後見人(ゲストスピーカー)から話を聞き、どのように人々の生活を支えているかを学び、現場における権利擁護の理解を深める				科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。												
【履修に当たっての心構え・留意点】																	
講義形式で学んだことと現場実習の間に位置する授業であることを踏まえ、積極的に参加することでスキルアップができるという認識で授業に臨むこと																	

授業概要

科目名	ソーシャルワーク実習指導（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員			
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・相談援助実習の意義について理解する。
- ・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術を体得する。
- ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

実習要項

実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。

授業計画

実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する

- ・相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義
- ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解
- ・実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
- ・現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。）
- ・実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
- ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。）
- ・「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
- ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
- ・巡回指導
- ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
- ・実習の評価全体総括会

【履修に当たっての心構え・留意点】

【成績評価の方法と基準】

ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。

実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Eの6段階で評価する。

授業概要

科目名	ソーシャルワーク実習（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員			
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	180 時間
【授業を通じての到達目標】										
<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習を通じて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 										
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）										
社会福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】						
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書				実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。						

授業計画

以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。

- ・利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価
- ・多種職連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- ・社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ・施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- ・当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

【履修に当たっての心構え・留意点】	【成績評価の方法と基準】
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。	実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。

授業概要

授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅲ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	田邊/原田		
学科コース	社会福祉科	学年	4年	授業の方法	講義	単位数	15 単位	総時間数	450 時間
【授業を通じての到達目標】									
国家試験対策だけではなく、1年後の専門職として働くことができるよう心構えや気構え、姿勢といった点を現場で働くOB/OGの話を聞くことにより考え、身に着ける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国家試験対策においては、過去の国家試験および模擬試験等を活用し、実施していく。同時に、希望者においては個の学習のみではなくTAを活用した学習を行っていく。就職関連においては、障害・行政・低所得で活躍するOB/OGをゲスト講師として招き講話してもらう。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					在校生オリエンテーションで配布された学習計画等のツールを活用し、学ぶこと。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 受験対策における、学習方法の説明 模擬試験等の説明 TA制の意義の説明	9	【授業単元】 受験対策 【到達目標】 社会共通						
2	【授業単元】 ゲスト講師 【到達目標】 業界で働くにあたって必要な知識・技術等 就職活動と国家試験の両立について	10	【授業単元】 ゲスト講師 【到達目標】 業界で働くにあたって必要な知識・技術等 就職活動と国家試験の両立について						
3	【授業単元】 受験対策 【到達目標】 社会福祉士共通科目	11	【授業単元】 模擬試験 【到達目標】 滋慶模試						
4	【授業単元】 ゲスト講師 【到達目標】 業界で働くにあたって必要な知識・技術等 就職活動と国家試験の両立について	12	【授業単元】 模擬試験 【到達目標】 滋慶模試						
5	【授業単元】 受験対策 【到達目標】 社会福祉士共通科目	13	【授業単元】 模擬試験 【到達目標】 滋慶模試						
6	【授業単元】 ゲスト講師 【到達目標】 業界で働くにあたって必要な知識・技術等 就職活動と国家試験の両立について	14	【授業単元】 模擬試験 【到達目標】 滋慶模試						
7	【授業単元】 受験対策 【到達目標】 社会福祉士共通科目	15	【授業単元】 模擬試験フィードバック(個別面談) 【到達目標】 滋慶模試フィードバック						
8	【授業単元】 ゲスト講師 【到達目標】 業界で働くにあたって必要な知識・技術等 就職活動と国家試験の両立について		【成績評価の方法と基準】						
			滋慶模擬試験における結果をもとにした、学習計画表のレポート提出をもって評価する。 評価基準においては、以下を参考にすること。 ① 現実的な目標設定となっているか ② 計画に対して、具体的な機会や方法が記載されているか ③ 計画に対して、自分で振り返ることができ、自己評価ができる内容になっているか 上記内容を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点にし、計100点での評価とする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
何かが提供されるのではなく、ゼミナールでは創り上げていくことがコンセプトとなります。主体的に学びたいテーマや関心を提案していくようにしていってください。									

授業概要

科目名	地域福祉応用実習指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員			
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・応用実習の意義について理解する。
- ・応用実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術を体得する。
- ・ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。

【使用教科書・教材・参考図書】	【授業時間外における学習】
実習要項	実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。

授業計画

実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する

- ・応用実習と応用実習指導における個別指導及び集団指導の意義
- ・実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解
- ・実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
- ・現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。）
- ・実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
- ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。）
- ・「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
- ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
- ・巡回指導
- ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
- ・実習の評価全体総括会

【履修に当たっての心構え・留意点】	【成績評価の方法と基準】
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。	実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Eの6段階で評価する。

授業概要

科目名	地域福祉応用実習	必修選択の別	必修選択	開講区分	前・後期	担当教員	学科教員			
学科コース	社会福祉科	学年	4年	授業の方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・応用実習を通して、相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ・応用実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。
- ・相談職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

実務経験がある学科教員が、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

実習要項

実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。

授業計画

以下の内容について、学生が考えた実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。

★地域の障害福祉サービス事業を行う施設等

次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。

- ・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価
- ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
- ・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ・施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

【履修に当たっての心構え・留意点】

ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。

【成績評価の方法と基準】

学科教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。

授業概要

科目名	権利擁護を支える法制度	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	上本昌昭			
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援とは何か、意思決定支援を行う上で遵守すべき事項について理解している。 ・成年後見制度の利用手続きと後見人等の権限の違いについて説明できる。 ・行政不服審査制度と行政事件訴訟との違いと、その違いに基づく具体的な利用手続きについて説明できる。 ・消費者保護における消費者契約法と特定商取引法との違いを説明できる。 										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
大学などで基礎法学の教育に携わり、権利保障や紛争処理の仕組みについて研究する教員が、成年後見制度、相談援助に必要な法制度の知識など、要支援者の権利を擁護できる力を身につけるための授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(中央法規) 『最新・社会福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度』					法律は表現が回りくどく理解しづらいので、言葉や表現の理解に努める。また、授業で解いた問題は復習し、確実に解答できるようになっておく。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1	【授業単元】 科目ガイダンス／意思決定支援とは何か	9	【授業単元】 権利擁護にかかわる組織や団体および専門職の役割							
	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・なぜ権利擁護や権利救済の知識が必要なのかを理解する。・「支援付き意思決定」と「代理代行決定」の違いを説明できる。・意思決定支援に関する各種指針(ガイドライン)の内容を理解する。		【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・「家事調停」「家事審判」「人事訴訟」の対象事項を判別できる。・家庭裁判所、法務局などの組織の役割を説明できる。・弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門職の役割を説明できる。							
2	【授業単元】 要支援者の権利(=支援者の義務)	10	【授業単元】 ソーシャルワークと法のかかわり②－行政法①							
	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・憲法の「個人の尊重」原理と人格権について説明できる。・憲法が保障する各種の自由と、それに関連する判例を想起できる。・意思決定支援を行う際に課される義務を説明できる。		【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・行政行為とは何か説明できる。・裁量行為と司法審査の関係について理解する。・行政救済制度の全体像を理解する。							
3	【授業単元】 ソーシャルワークと法のかかわり①－憲法	11	【授業単元】 ソーシャルワークと法のかかわり③－行政法②							
	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・生存権の意義、社会保障制度との関連について説明できる。・朝日訴訟と堀木訴訟の違いと最高裁判決の内容を説明できる。・「権力能力」「意思能力」「行為能力」の違いを説明できる。		【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・審査請求とは何か説明できる。・不服申立前置主義による行政救済手続きの違いを説明できる。・行政事件訴訟の訴訟類型を説明できる。							
4	【授業単元】 成年後見制度①	12	【授業単元】 ソーシャルワークと法のかかわり④－民法①							
	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・法定後見と任意後見の相違点について説明できる。・成年後見人、保佐人、補助人が有する権限の違いを説明できる。・後見人等の「事務」と「義務」の内容について説明できる。		【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・契約の成立要件を理解し、各種の典型契約の特徴を列挙できる。・消費者契約法と特定商取引法による救済方法を説明できる。・債務不履行、不法行為、国家賠償の各種責任を説明できる。							
5	【授業単元】 成年後見制度②	13	【授業単元】 ソーシャルワークと法のかかわり⑤－民法②							
	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・法定後見の「申立権者」について列挙できる。・後見人等の「辞任」と「解任」の各手続きについて説明できる。		【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・婚姻、離婚、実子関係、養子縁組などの制度を理解する。・扶養義務の範囲と強度の違いを理解する。・遺産の法定相続分を計算できる。							
6	【授業単元】 成年後見制度③	14	【授業単元】 権利擁護を支える仕組み							
	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・任意後見が開始されるまでの手続きについて説明できる。・任意後見受任者、任意後見人、任意後見監督人を説明できる。		【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・行政救済、民事救済の各種方法と苦情解決の仕組みを想起できる。・虐待や暴力を防止する各種法律の概要を説明できる。・差別を防止する各種法律の概要を説明できる。							
7	【授業単元】 成年後見制度④	15	【授業単元】 定期試験							
	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・成年後見制度の今日的課題を列挙できる。・『成年後見関係事件の概況』の内容を想起できる。・成年後見制度全体を復習し理解を深める。		【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・知識が不足している部分、自分が弱い事項を確認する。・定期試験の解答解説を通じて、これまでの学習内容を振り返る。							
8	【授業単元】 日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業		【成績評価の方法と基準】							
	【到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・日常生活自立支援事業の利用手続きと事業内容を説明できる。・日常生活自立支援事業と成年後見制度の異同を説明できる。・成年後見制度利用支援事業の内容を説明できる。		科目の評価は、筆記試験で行う。筆記試験は、授業内で扱った内容の理解や定着を確認するものである。 各回の授業で5点満点の小テストを実施する(第8回のみは15点満点)。その上で、成績は、小テストの合計点に1/2を乗じた点数(40点満点: 小数点以下は切り上げ)と定期試験(60点満点)を合算した100点満点で、AからFの6段階で評価を行う。							
【履修に当たっての心構え・留意点】										
授業では、ノートはしっかりととり、また、配布したプリントは整理して、後から見直せるようにしておくこと。分からないところは放置せず、理解することを諦めない。										

授業概要

科目名	精神医学と精神医療	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	梅崎宏樹		
学科コース	社会福祉科	学年	4年	授業の方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間

【授業を通じての到達目標】

精神医学と疾患分類、診断、そして治療に関し、精神保健福祉士として必要な知識を習得することを目指します。主に代表的な精神疾患と疾患ごとの薬物療法及び非薬物療法、リハビリテーションに関する講義を行います。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

授業は「精神医学と精神医療」をテキストを中心に講義しますが、自駆例や架空の事例などを呈示しながら精神疾患を抱えて生きる方々への理解が深められる授業にしたいと思っています。

【使用教科書・教材・参考図書】

- 最新精神保健福祉士養成講座1『精神医学と精神医療』(2023年、中央法規)
- もっと理解を深めたい方へ: 中井久夫・山口直彦著『看護のための精神医学 第2版』(2004年、医学書院)

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】 講義のオリエンテーション 【到達目標】 精神の病は古代ギリシャ時代より記述されてきました。四体液説から始まり、中世の魔女狩りを経て、やがて現代的な精神医学が生まれます。精神医学の歴史を概観しながら、「精神が病む」とはどういうことなのか、皆さんに問い合わせながら一緒に考えてもらいたいと思います。	17	【授業単元】 神経症性障害 【到達目標】 ストレスや心理的葛藤などを原因とした精神疾患の解説、治療に関して講義します。また、これらの治療や解明に影響を与えた精神療法についても詳細に解説します。各疾患の把握、薬物療法および非薬物療法の理解を目標とします。
3	【授業単元】 心のありか、脳の構造、精神病理学、ICDとDSMについて 【到達目標】 心は目にみせんが、心の成立させているのはおそらく脳という臓器だと考えられます。脳の機能や情報処理の構造などを理解しながら、精神疾患がなぜ生じるのか一緒に考えてもらいたいと思います。	19	【授業単元】 摂食障害、睡眠障害、パーソナリティ障害、性行動の障害 【到達目標】 摂食障害は大変しつこく、治療が長期に及ぶ場合がある精神疾患です。摂食障害への理解、治療、ケアなどについて講義します。睡眠障害、パーソナリティ障害等についての解説も行います。これら講義した精神疾患への理解を目標とします。
5	【授業単元】 器質性精神障害 【到達目標】 脳の器質的な変性や障害を原因とした精神疾患について講義します。特に認知症に関し、認知症の分類、認知症検査、薬物療法およびリハビリテーションへの理解を目標とします。	21	【授業単元】 精神遅滞(知的障害)、発達障害 【到達目標】 精神遅滞と発達障害に関する講義を行います。特にこれらの疾患は就学前や義務教育の段階で自立、医療や福祉につながります。薬物療法という手腕は得意とするところではなく、療育することが大切です。精神遅滞と発達障害に関する理解、療育についての理解を目標とします。
7	【授業単元】 物質使用による精神障害 【到達目標】 アルコールや違法薬物の摂取による依存症について講義します。アルコール依存症や薬物依存に関する治療、リハビリテーションに関する理解を目標とします。	23	【授業単元】 精神科薬物療法 【到達目標】 各疾患単位で薬物療法について解説ましたが、精神科で処方される抗精神病薬や抗うつ病薬などについて改めて理解することを目標とします。
9	【授業単元】 統合失調症と妄想性障害 【到達目標】 近代精神医学は統合失調症の解明と治療を中核に置いてきた歴史がありますが、未だ謎の多い精神疾患です。統合失調症の分類、薬物療法、非薬物療法としてのリハビリテーション、精神療法に関する理解を目標とします。	25	【授業単元】 非薬物療法(リハビリテーション・精神療法) 【到達目標】 非薬物療法として精神科におけるリハビリテーションと精神療法について解説します。特に私自身は公認心理師として精神科などで精神療法を担当してきました。さまざまな精神療法がありますので、理解を目指してください。
11	【授業単元】 統合失調症と妄想性障害 【到達目標】 急性精神病、妄想性障害、思春期妄想症などの統合失調症に類似する精神疾患の解説や治療に関する理解を目標とします。	27	【授業単元】 精神科医療の制度 【到達目標】 精神科医療には入院や外来があり、その他にも精神科訪問看護や訪問リハビリテーションなどのサービス、精神科デイケアがあります。精神医療制度の把握を目標とします。今現在私が注目しているフィンランドの精神医療制度としてオープンダイアローグの取り組みについてもご紹介します。
13	【授業単元】 気分障害(うつ病) 【到達目標】 気分障害のうち、うつ病に関する講義を行います。うつ病の症状や分類、薬物療法および非薬物療法に関する理解を目標とします。	29	【授業単元】 期末テスト、地域の精神医療・精神保健 【到達目標】 これまで扱った内容を範囲として定期試験を行います。最終回は、精神医療は入院治療中心から地域への移行、外来通院治療へシフトし、入院や地域移行、社会復帰など様々な場面でPSWの方は関わっています。精神科医療における連携について理解することを目標とします。
15	【授業単元】 気分障害(双極性障害)・中間テスト 【到達目標】 15回目は中間テストを行います。これまで講義で扱った内容を範囲とします。 16回目は気分障害のうち双極性障害の分類、精神症状、薬物療法および非薬物療法に関する理解を目標とします。	30	【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験はTeamsで行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。
【履修に当たっての心構え・留意点】			
授業でやったことを知識として習得するだけでなく、精神科実習などを通し、患者さんの体験を大切にし、体験をした主体を尊重することを目指してください。			

授業概要

授業概要

科目名	ソーシャルワーク実習指導（精神）	必修選択の別	必修選択	開講区分	前・後期	担当教員	学科教員			
学科コース	社会福祉科	学年	4年	授業の方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90 時間

【授業を通じての到達目標】

- 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
- 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
- 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
- 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

精神保健福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

実習要項

実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。

精神保健福祉士指定科目 各教科書

授業計画

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する

- 精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義
- 精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解
- 実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解
- 現場体験学習及び見学実習
- 実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解
- 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
- 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）
- 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
- 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
- 巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）
- 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
- 実習の評価全体総括会

【履修に当たっての心構え・留意点】

【成績評価の方法と基準】

ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。

実習前試験の結果をふまえ、A～Eの6段階で評価する。

授業概要

科目名	ソーシャルワーク実習（精神）	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員			
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ・精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。
- ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

精神保健福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

実習要項

精神保健福祉士指定科目 各教科書

【授業時間外における学習】

実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。

授業計画

以下の内容について、各実習施設に於ける実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。

1. 精神科病院等の病院

患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。

- ・入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助
- ・退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助
- ・多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助

2. 精神科診療所

患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。

- ・治療中の患者及びその家族への相談援助
- ・日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助
- ・地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助

3. 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等・精神科病院等の医療機関

次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。

・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成

- ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価
- ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
- ・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ・施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際

【履修に当たっての心構え・留意点】

ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。

【成績評価の方法と基準】

実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。